

# 令和7年度男女共同参画市民アンケート結果【概要版】

## 1 調査の目的

このアンケートは、男女共同参画社会の形成に向けて、広く市民の皆様にも男女平等に関する意識やご意見等をお聞きし、今後の船橋市の男女共同参画施策に反映させていくための基礎資料とすることを目的としています。

## 2 調査の設計・回収結果

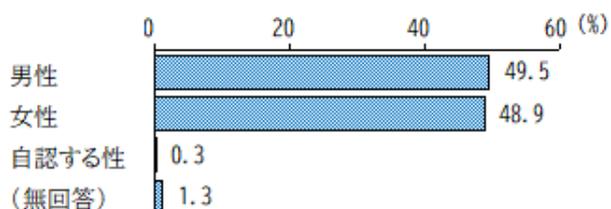
- (1) 調査区域 : 船橋市全域
- (2) 調査対象 : 住民基本台帳に記載されている満18歳以上の個人
- (3) 標本数 : 2,000人
- (4) 抽出方法 : 調査対象から無作為抽出
- (5) 調査方法 : 郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用法
- (6) 調査期間 : 令和7年9月10日～9月30日
- (7) 回収数 : 626件(31.3%) [郵送:363件、インターネット:263件]

## 3 概要版の見方

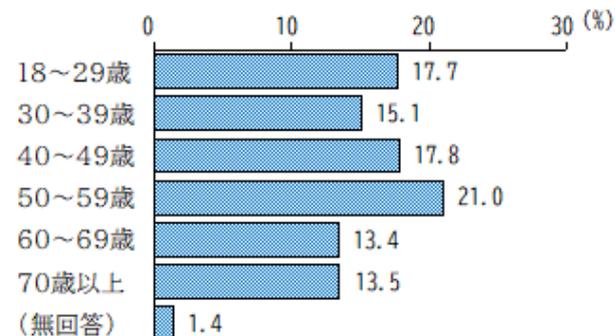
- (1) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、各回答率(%)を足し上げても100.0%とならない場合があります。
- (2) グラフ中の( )内の数値は回答者総数(又は、分類別の該当者数)を示し、回答比率は、これを100%として算出しました。
- (3) 船橋市の性別・年代・居住地域の人口構成比と回答者の性別・年代・居住地域の構成比のゆがみを補正するため、性別・年代・居住地域によるウエイトバック集計を行い、補正後の結果を掲載しています。ただし、前回調査ではウエイトバック集計を行っていないため、今回調査の補正前の結果と比較しています。

## 4 回答者の属性

### (1) 性別

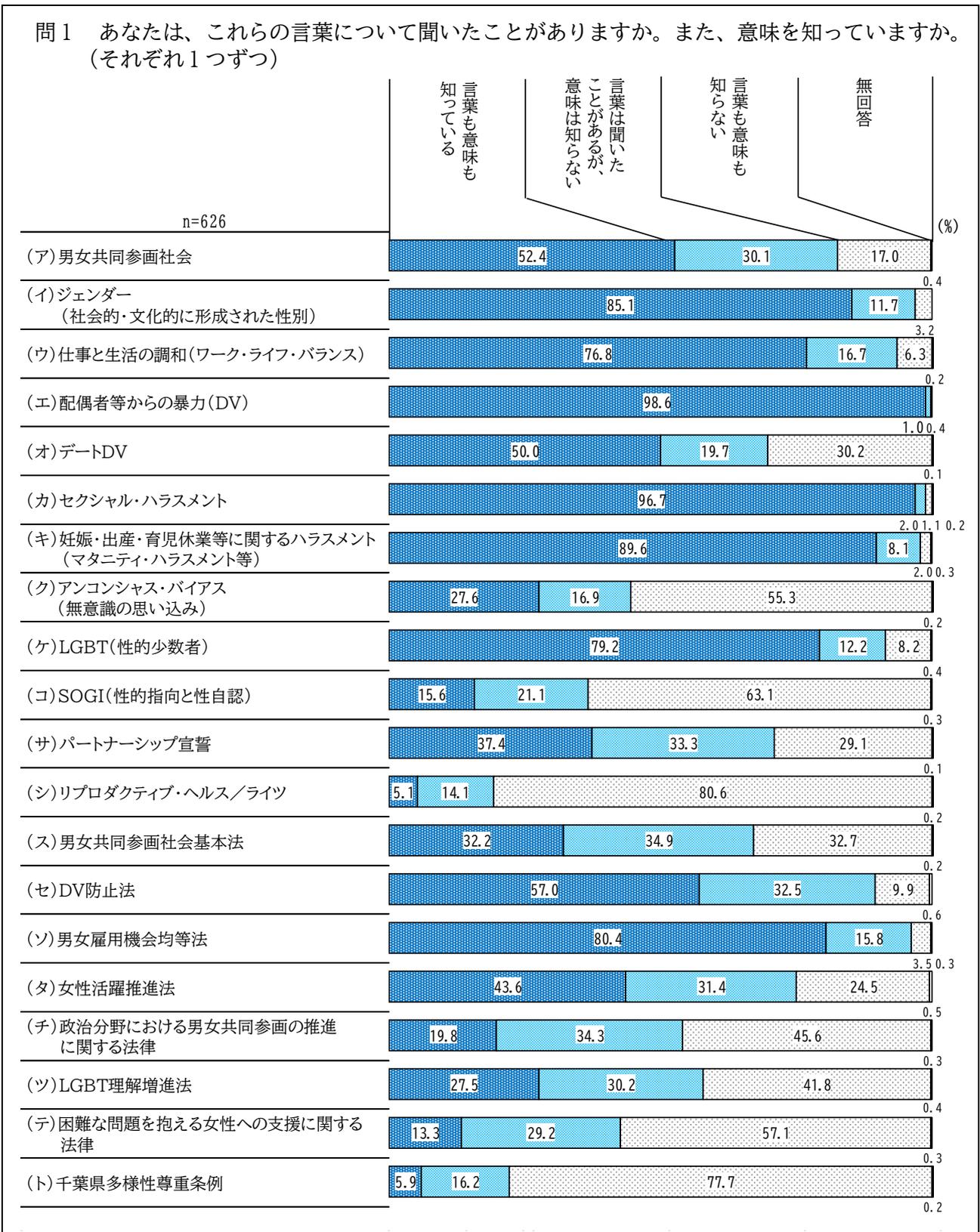


### (2) 年齢



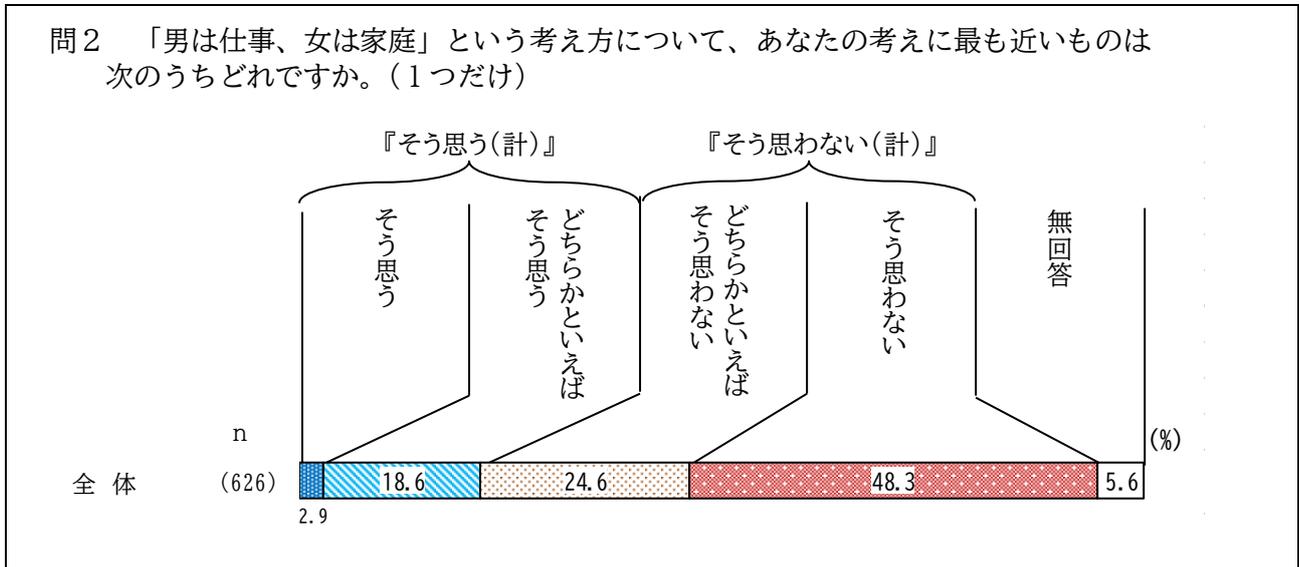
# 1. 男女共同参画について

## (1) 男女共同参画に関する用語や法令の認知度



## 2. 男女の平等感について

### (1) 男女の役割分担意識



「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「そう思わない」と「どちらかといえはそう思わない」をあわせた『そう思わない(計)』(72.9%)の割合が7割台半ばとなっています。一方、「そう思う」と「どちらかといえはそう思う」をあわせた『そう思う(計)』(21.5%)の割合が2割強となっています。

#### <参考> 国及び県の調査結果との比較

##### 【全体】

	船橋市		国(※1)		県(※2)	
	令和2年度	令和7年度	令和4年11月	令和6年9月	令和元年度	令和6年度
そう思う(計)	24.4%	21.5%	33.5%	33.1%	9.3%	5.5%
そう思わない(計)	70.6%	72.9%	64.3%	64.8%	41.4%	47.3%
どちらともいえない	—	—	—	—	48.1%	45.0%

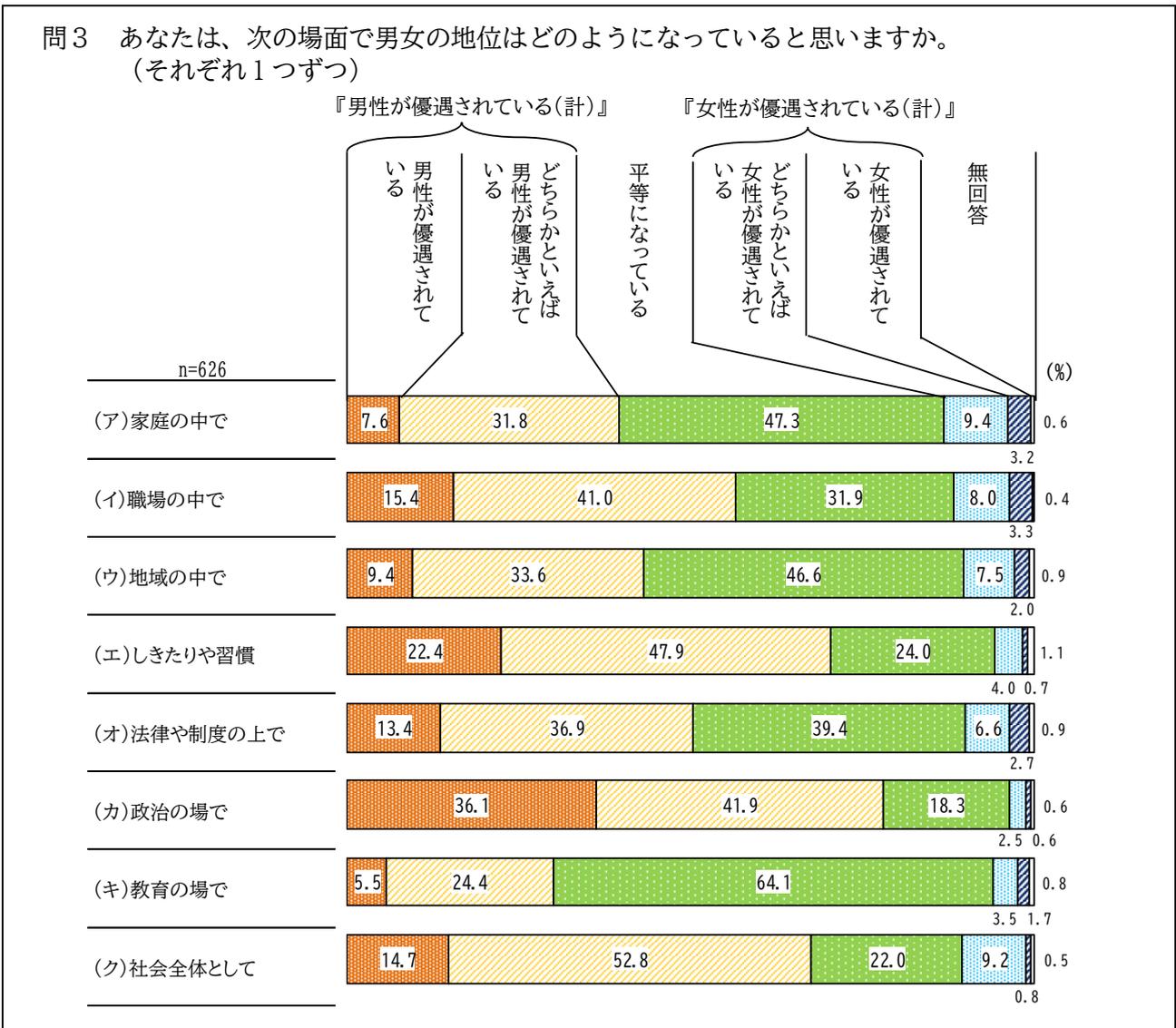
(※1) 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

(※2) 千葉県「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」

千葉県の調査のみ、選択肢に「どちらともいえない」があります。

国及び県の調査結果との比較では、「そう思わない(計)」と思う人が、船橋市(令和2年度→令和7年度)が70.6%→72.9%に対し、国(令和4年11月→令和6年9月)が64.3%→64.8%、県(令和元年度→令和6年度)が41.4%→47.3%でした。

## (2) 男女平等意識



場面ごとの男女の地位について聞いたところ、「平等になっている」の割合は、「(キ)教育の場で」(64.1%)が最も高く、以下、「(ア)家庭の中で」(47.3%)、「(ウ)地域の中で」(46.6%)、「(オ)法律や制度の上で」(39.4%)が続いています。

一方、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇されている(計)』の割合は、「(カ)政治の場で」(78.0%)が最も高く、以下、「(エ)しきたりや習慣」(70.3%)、「(ク)社会全体として」(67.5%)、「(イ)職場の中で」(56.4%)が続いています。

また、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」をあわせた『女性が優遇されている(計)』の割合は、すべての項目が1割台またはそれ以下で、『男性が優遇されている(計)』を下回っています。

<参考> 国及び県の調査結果との比較

		船橋市		国（※1）		県（※2）	
		令和2年度	令和7年度	令和4年 11月	令和6年 9月	令和元年度	令和6年度
(ア) 家庭の 中で	男性が優遇されて いる（計）	50.2%	39.4%	59.8%	60.7%	45.4%	46.9%
	平等	36.8%	47.3%	31.7%	30.0%	40.2%	35.8%
	女性が優遇されて いる（計）	11.0%	12.6%	8.0%	9.0%	8.9%	9.4%
(イ) 職場の 中で	男性が優遇されて いる（計）	62.5%	56.4%	64.1%	63.8%	61.8%	57.0%
	平等	25.5%	31.9%	26.4%	25.8%	19.7%	24.1%
	女性が優遇されて いる（計）	8.2%	11.3%	7.7%	9.2%	6.3%	6.4%
(ウ) 地域の 中で	男性が優遇されて いる（計）	46.2%	43.0%	47.8%	47.0%	33.1%	37.3%
	平等	43.6%	46.6%	40.2%	40.3%	43.4%	38.1%
	女性が優遇されて いる（計）	6.4%	9.5%	9.9%	10.5%	8.2%	7.4%
(エ) しきたりや習 慣	男性が優遇されて いる（計）	71.9%	70.3%	81.8%	78.2%	76.6%	80.5%
	平等	21.7%	24.0%	12.9%	16.3%	13.6%	9.0%
	女性が優遇されて いる（計）	3.9%	4.7%	3.3%	3.9%	2.1%	3.0%
(オ) 法律や 制度の 上で	男性が優遇されて いる（計）	53.8%	50.3%	52.3%	50.4%	41.9%	48.3%
	平等	36.0%	39.4%	37.0%	38.2%	37.6%	29.2%
	女性が優遇されて いる（計）	7.0%	9.3%	9.7%	10.8%	6.3%	9.1%
(カ) 政治の 場で	男性が優遇されて いる（計）	81.7%	78.0%	87.9%	87.9%	76.2%	83.5%
	平等	14.5%	18.3%	9.6%	9.4%	11.8%	7.2%
	女性が優遇されて いる（計）	1.0%	3.1%	1.7%	2.1%	1.6%	1.3%
(キ) 教育の 場で	男性が優遇されて いる（計）	33.1%	29.9%	24.5%	21.9%	22.0%	20.4%
	平等	59.1%	64.1%	68.1%	70.4%	51.5%	51.1%
	女性が優遇されて いる（計）	4.0%	5.2%	5.3%	6.1%	3.4%	4.4%
(ク) 社会全 体とし て	男性が優遇されて いる（計）	74.1%	67.5%	78.8%	74.7%	71.8%	69.8%
	平等	18.7%	22.0%	14.7%	16.7%	13.6%	13.4%
	女性が優遇されて いる（計）	4.9%	10.0%	4.8%	6.8%	5.8%	7.0%

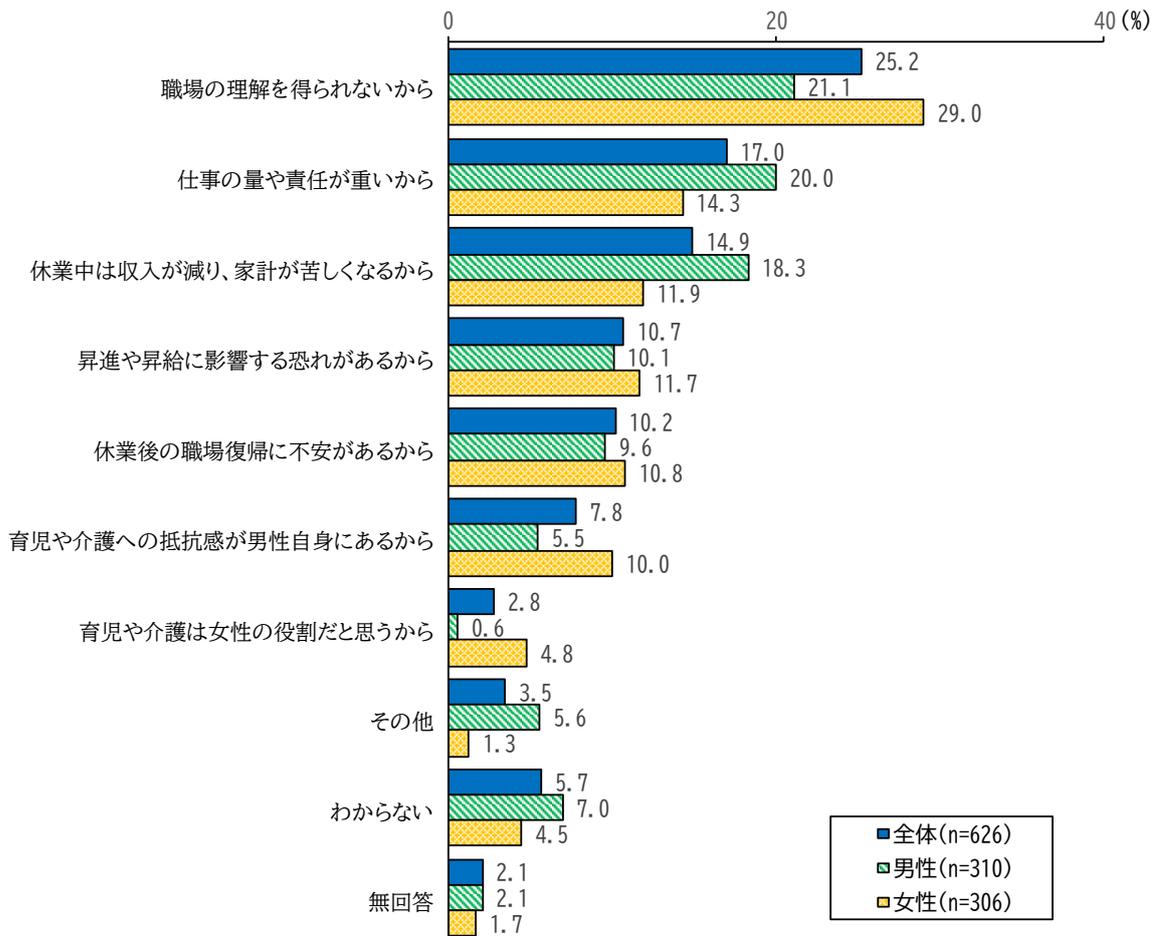
(※1) 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

(※2) 千葉県「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」

### 3. 女性の活躍について

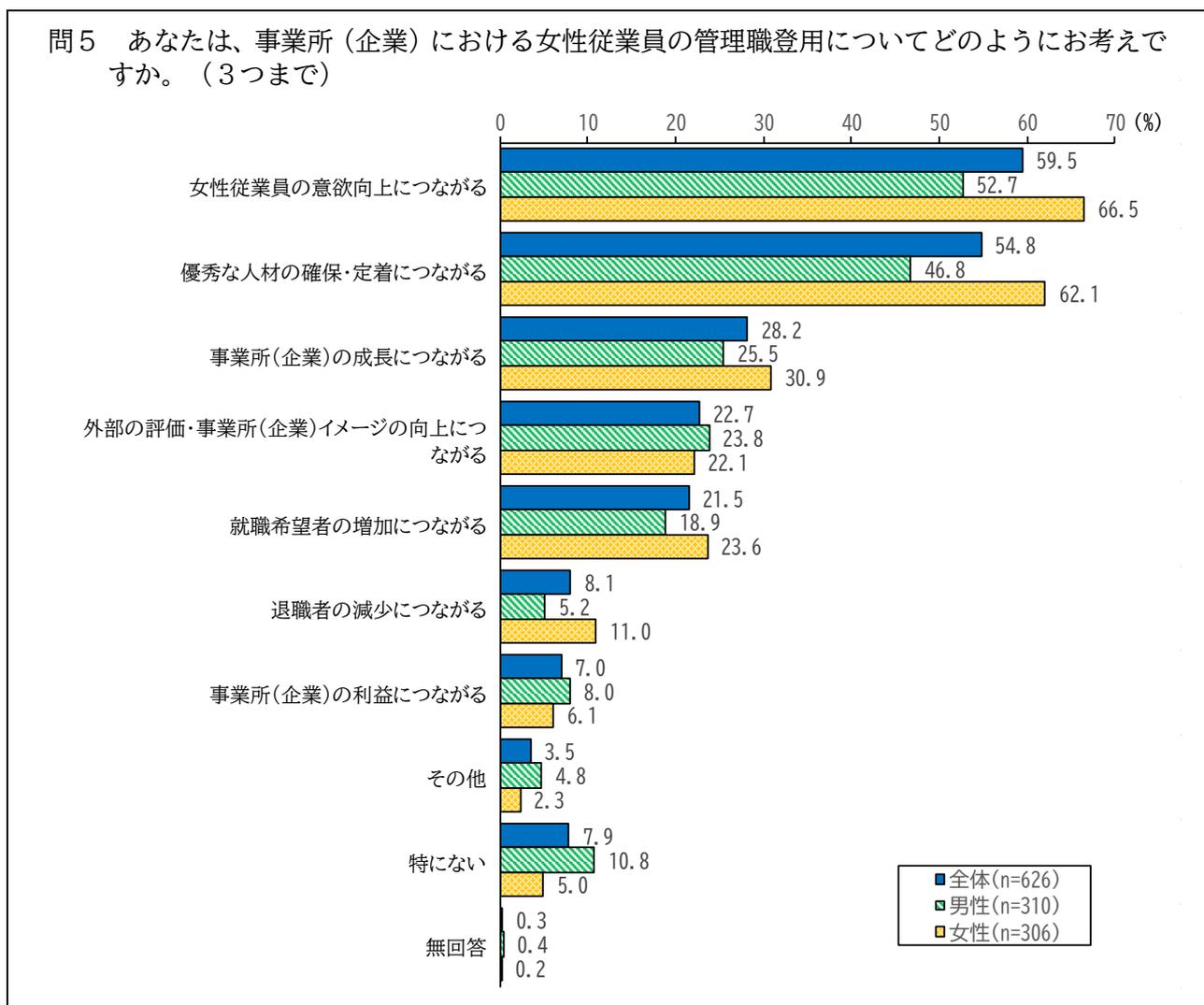
#### (1) 男性の育児休業取得率が低い要因

問4 厚生労働省の「令和6年度雇用均等基本調査」によると、男性の育児休業取得者の割合は40.5%でした。近年、男性は上昇傾向にありますが、女性の86.6%に比べると低い結果となっています。その主な要因としてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。（1つだけ）



男性の育児休業取得率が低い要因を聞いたところ、「職場の理解を得られないから」（25.2%）が最も高く、以下、「仕事の量や責任が重いから」（17.0%）、「休業中は収入が減り、家計が苦しくなるから」（14.9%）、「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」（10.7%）が続いています。

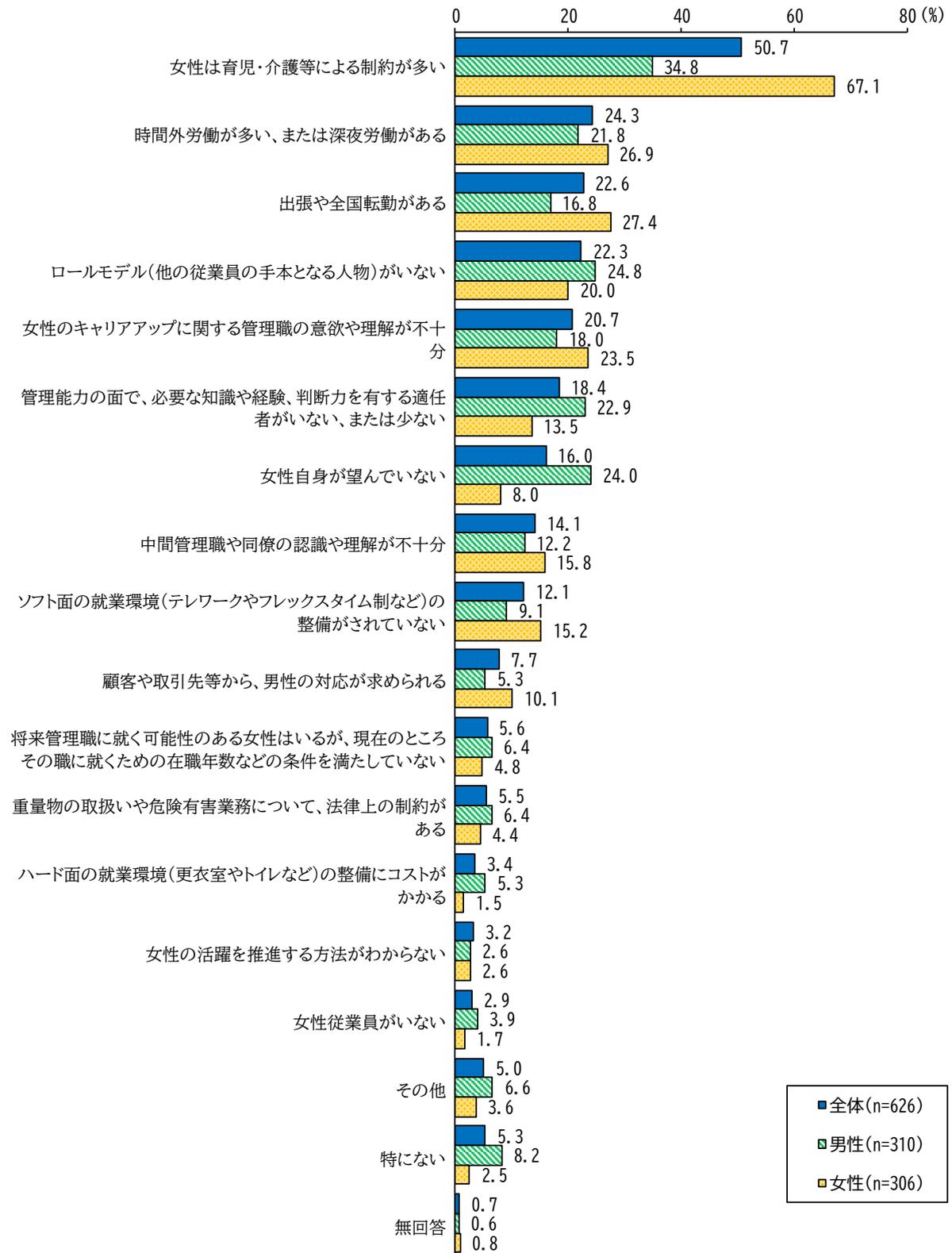
## (2) 女性従業員の管理職登用についての考え



女性従業員の管理職登用についての考えを聞いたところ、「女性従業員の意欲向上につながる」（59.5%）が最も高く、以下、「優秀な人材の確保・定着につながる」（54.8%）、「事業所（企業）の成長につながる」（28.2%）、「外部の評価・事業所（企業）イメージの向上につながる」（22.7%）が続いています。

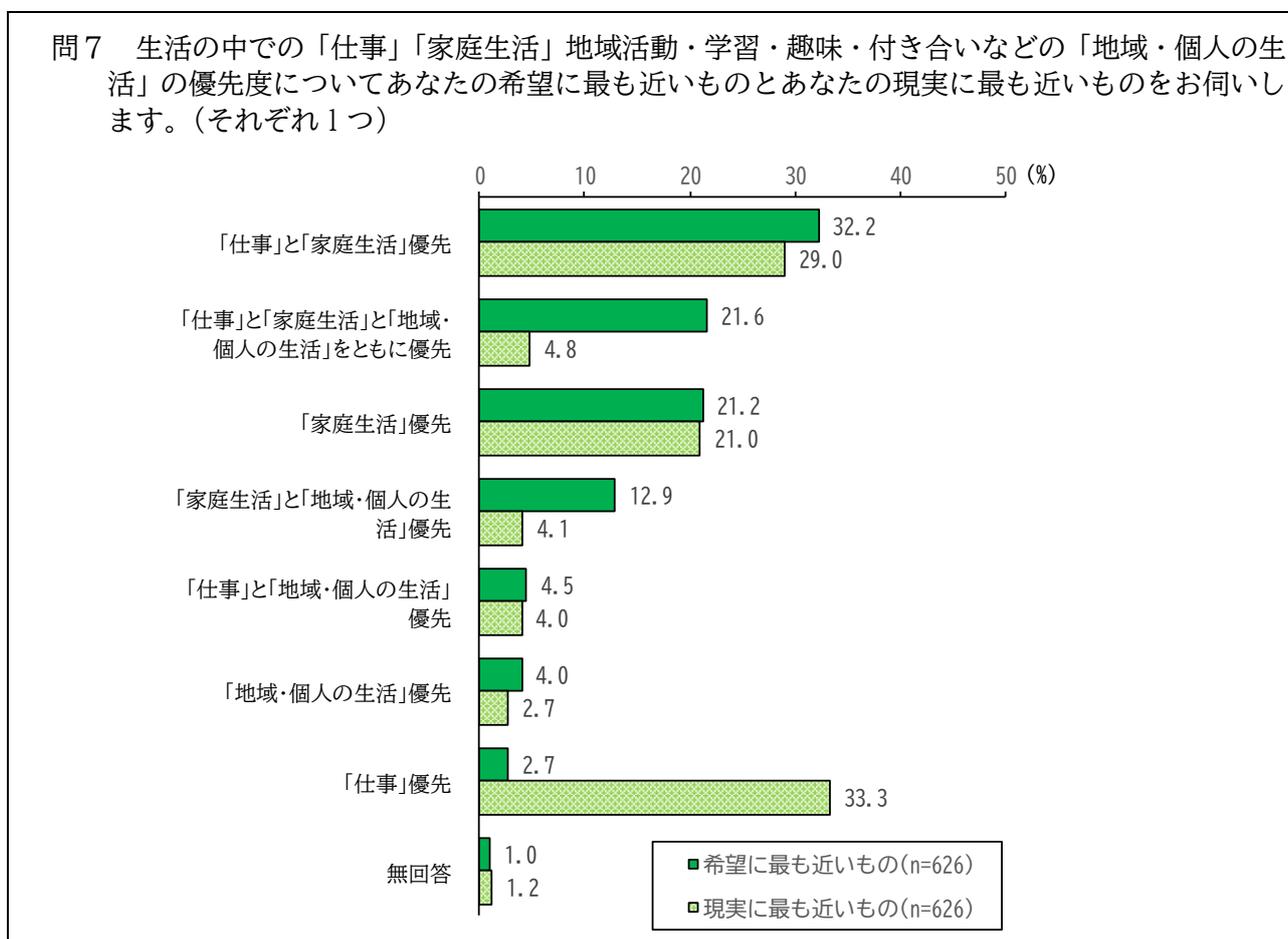
### (3) 女性の活躍を推進する上での課題

問6 あなたは、事業所（企業）において女性管理職を増やすことを含め、女性の活躍を推進する上でどのような課題があると思いますか。（3つまで）



## 4. 仕事と家庭生活、地域活動について

### (1) 生活の中での優先度



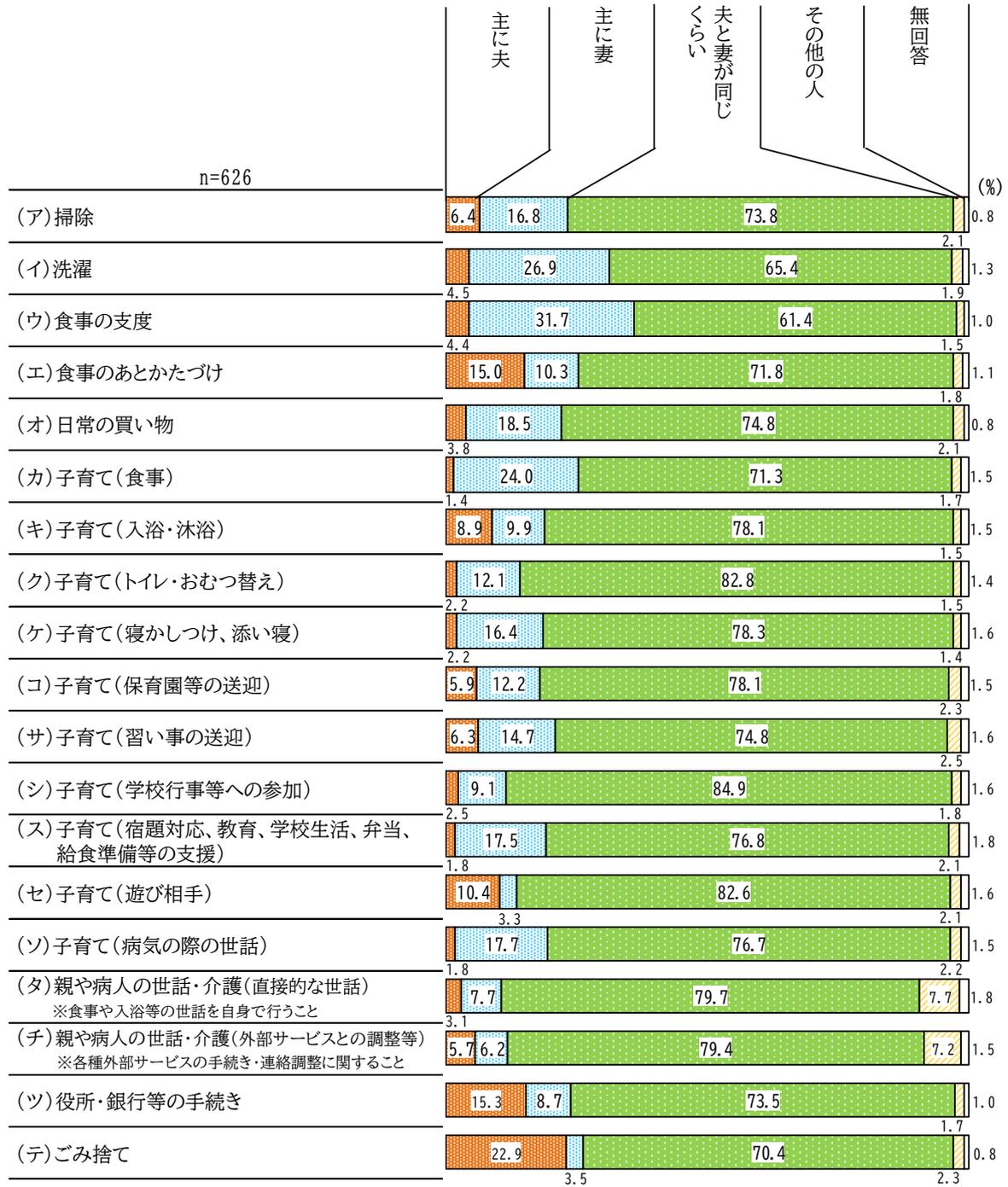
生活の中での優先度について、希望に最も近いものを聞いたところ、『「仕事」と「家庭生活」優先』(32.2%)が最も高く、以下、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』(21.6%)、『「家庭生活」優先』(21.2%)が続いています。

現実に最も近いものを聞いたところ、『「仕事」優先』(33.3%)が最も高く、以下、『「仕事」と「家庭生活」優先』(29.0%)、『「家庭生活」優先』(21.0%)が続いています。

希望に最も近いものと現実に最も近いものの差をみると、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は希望が現実よりも16.8ポイント高く、『「仕事」優先』は現実が希望よりも30.6ポイント高くなっています。

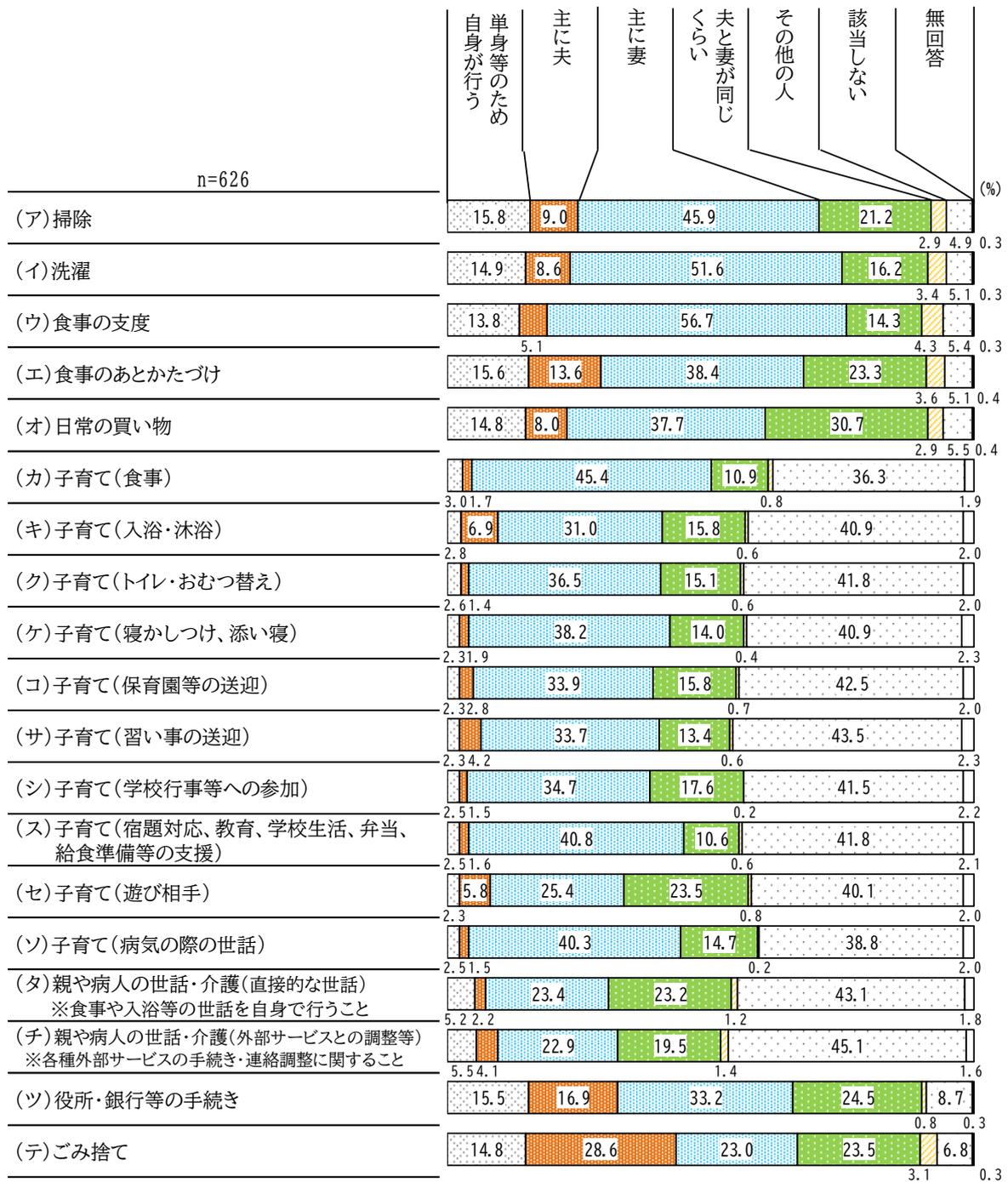
## (2) 夫婦の役割分担（理想的と考えるもの）

問 8-1 次にあげる日常的な事柄は主に誰がするかについて、あなたが、“夫婦が同居する場合に理想的と考えるもの”を選んでください。（それぞれ1つずつ）



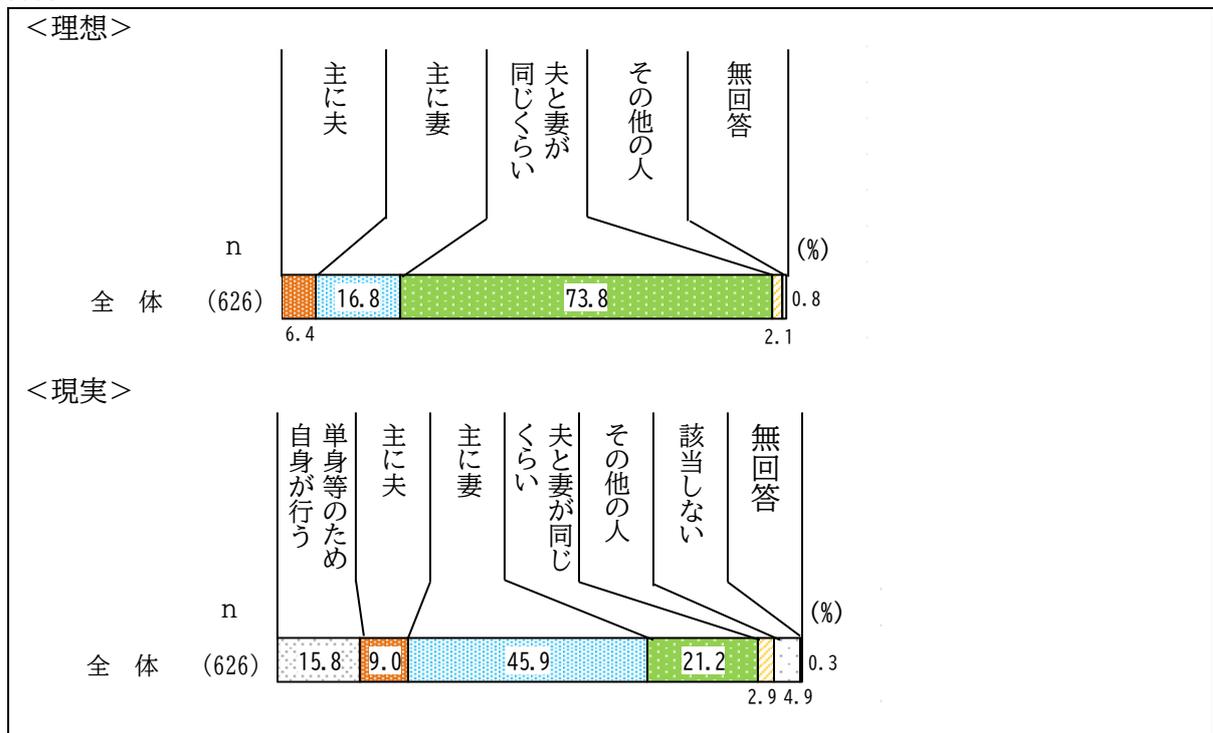
### (3) 夫婦の役割分担（現実に最も近いもの）

問8-2 次にあげる日常的な事柄は主に誰がするかについて、あなたの“現実に最も近いもの”を選んでください。（それぞれ1つずつ）



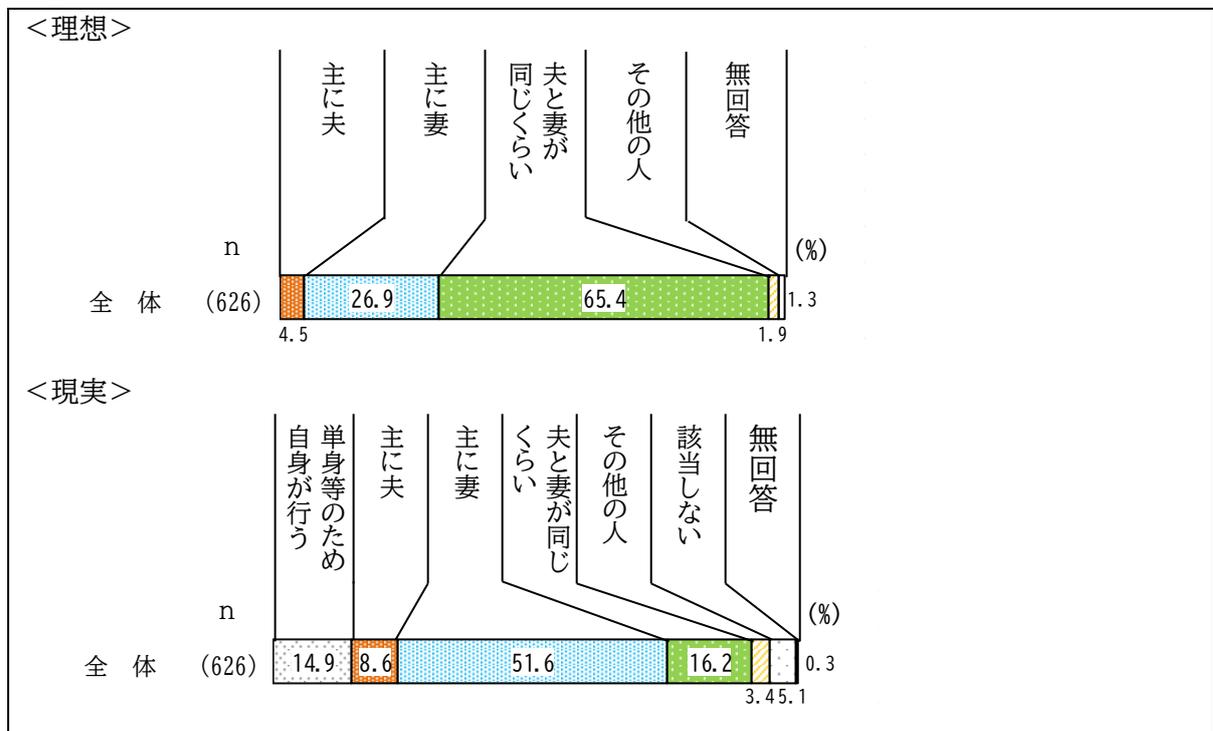
【参考】夫婦の役割分担について、（２）理想と（３）現実の比較

（ア）掃除



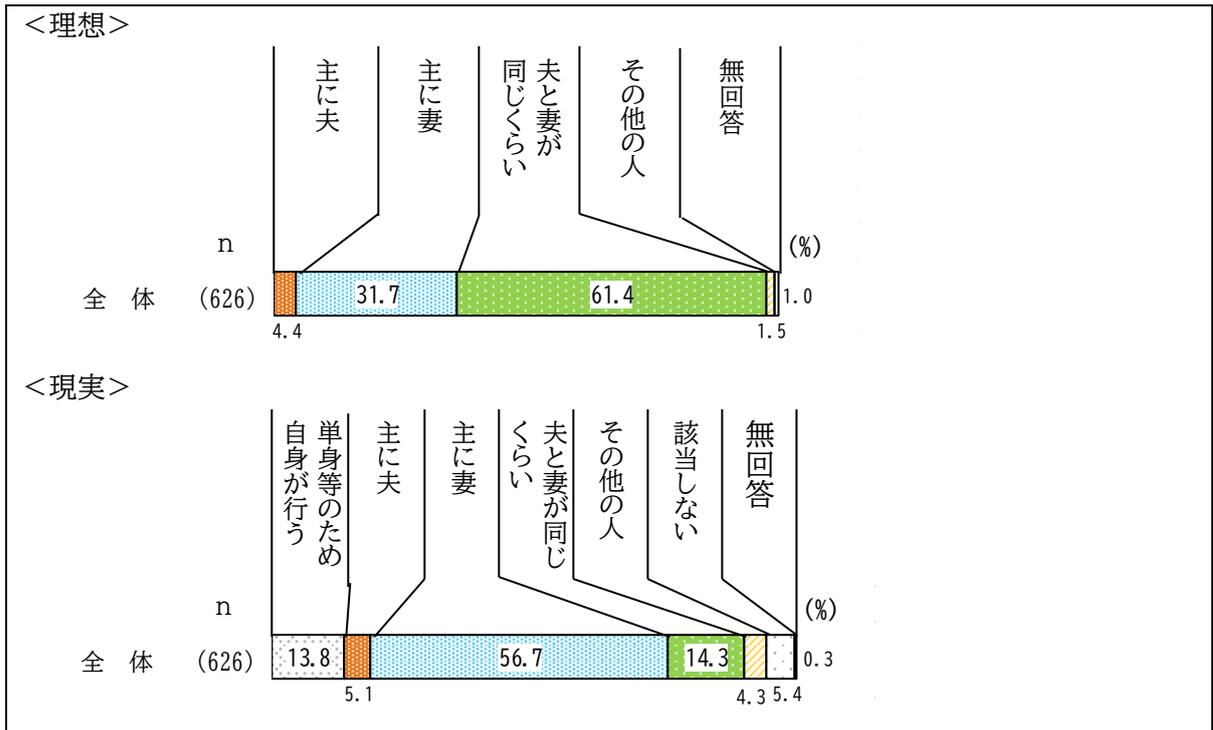
「主に夫」は理想では6.4%に対し、現実には9.0%。「主に妻」は理想では16.8%に対し、現実には45.9%。「夫と妻が同じくらい」は理想では73.8%に対し、現実には21.2%となっています。

（イ）洗濯



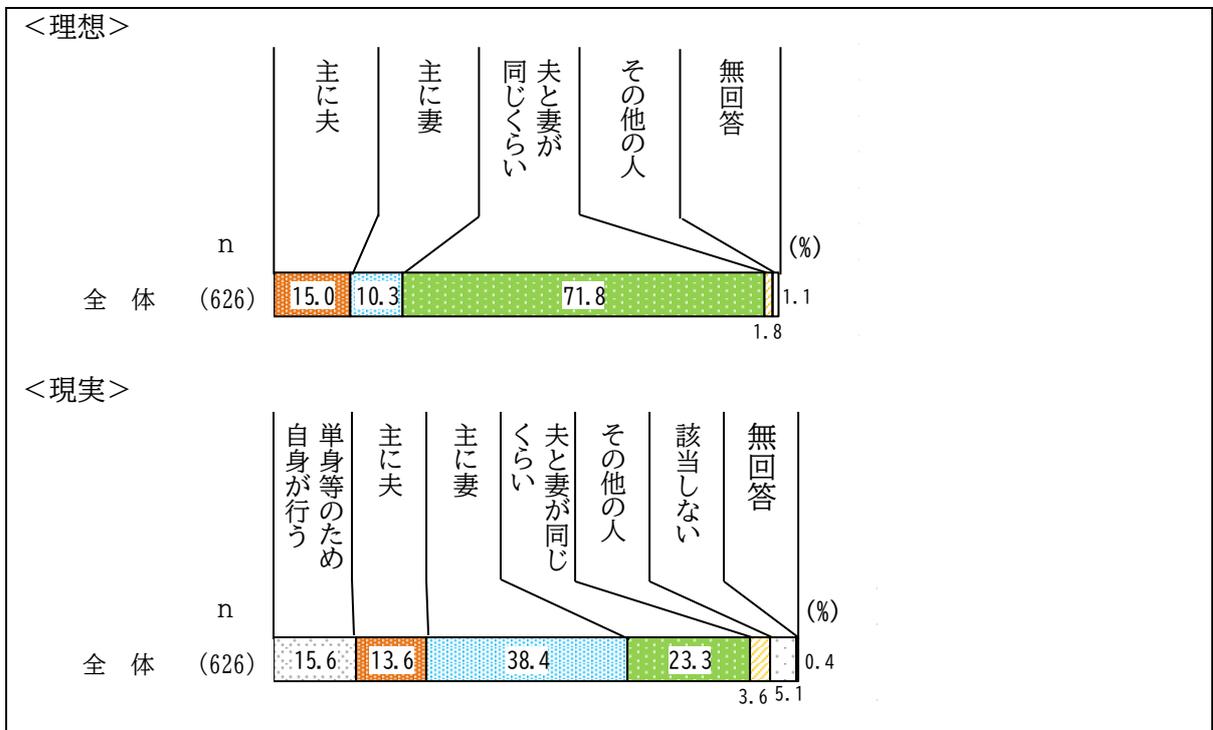
「主に夫」は理想では4.5%に対し、現実には8.6%。「主に妻」は理想では26.9%に対し、現実には51.6%。「夫と妻が同じくらい」は理想では65.4%に対し、現実には16.2%となっています。

(ウ) 食事の支度



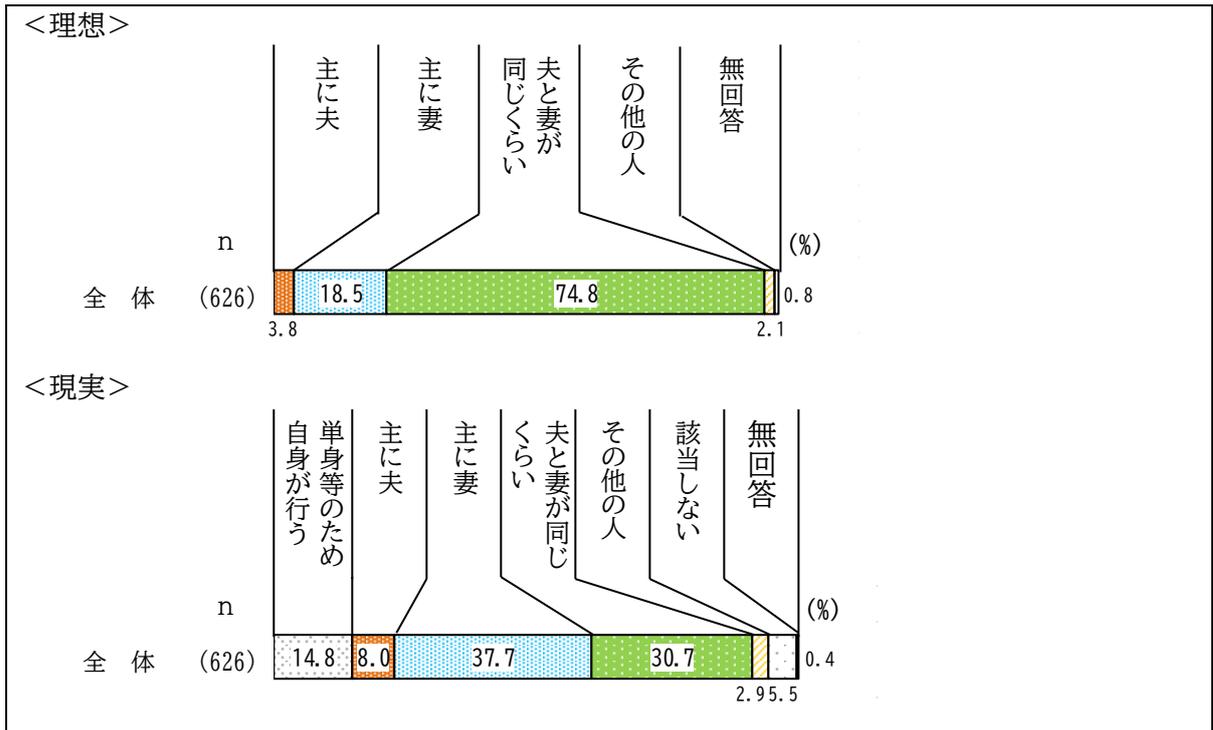
「主に夫」は理想では4.4%に対し、現実には5.1%。「主に妻」は理想では31.7%に対し、現実には56.7%。「夫と妻が同じくらい」は理想では61.4%に対し、現実には14.3%となっています。

(エ) 食事のあとかたづけ



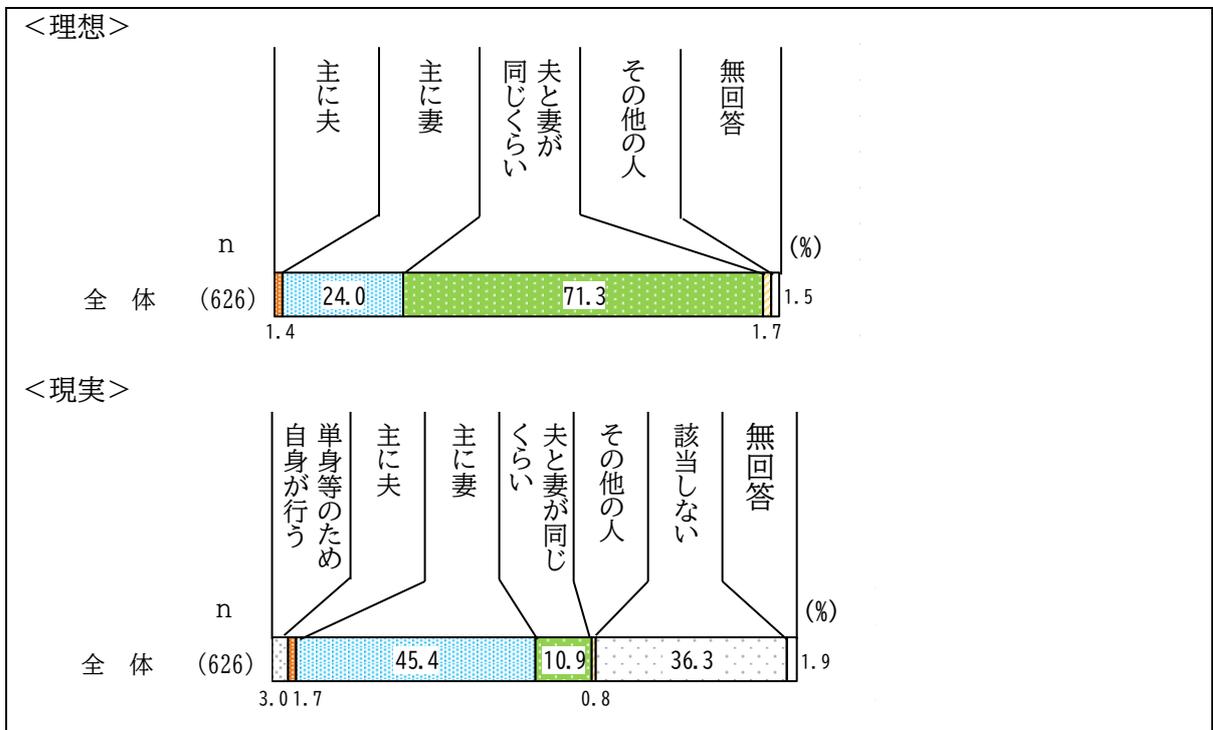
「主に夫」は理想では15.0%に対し、現実には13.6%。「主に妻」は理想では10.3%に対し、現実には38.4%。「夫と妻が同じくらい」は理想では71.8%に対し、現実には23.3%となっています。

(オ) 日常の買い物



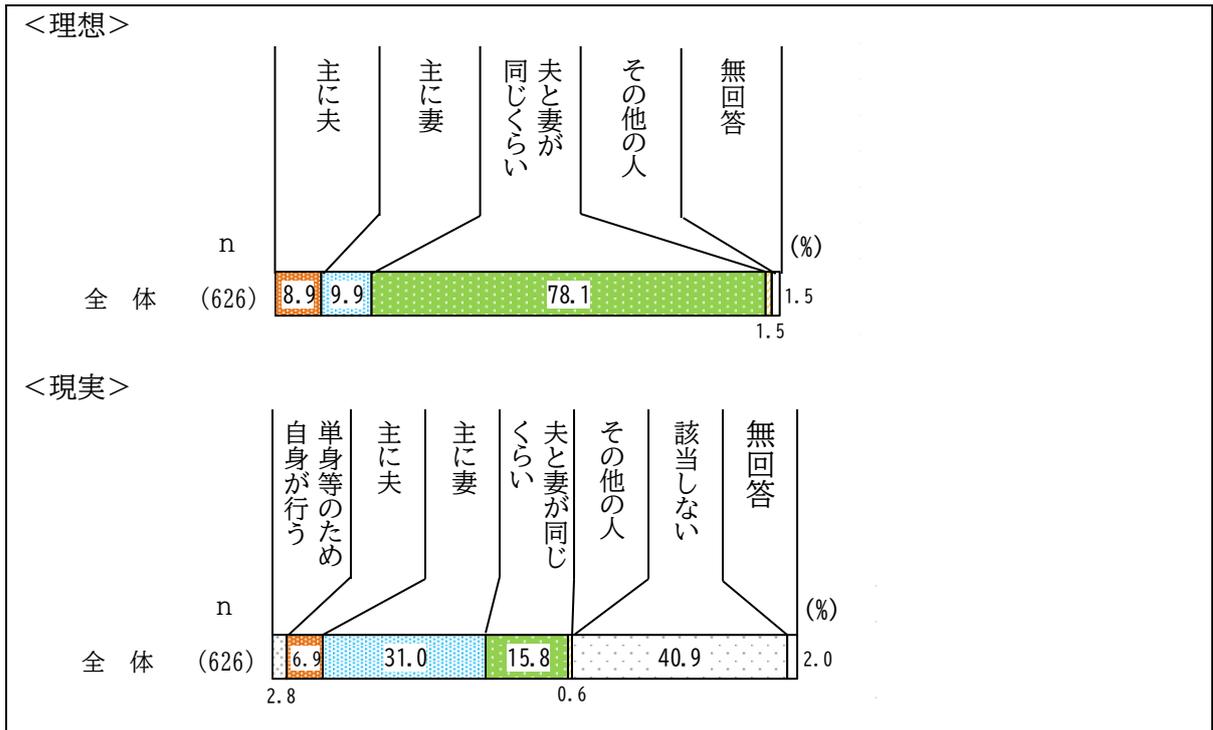
「主に夫」は理想では3.8%に対し、現実には8.0%。「主に妻」は理想では18.5%に対し、現実には37.7%。「夫と妻が同じくらい」は理想では74.8%に対し、現実には30.7%となっています。

(カ) 子育て（食事）



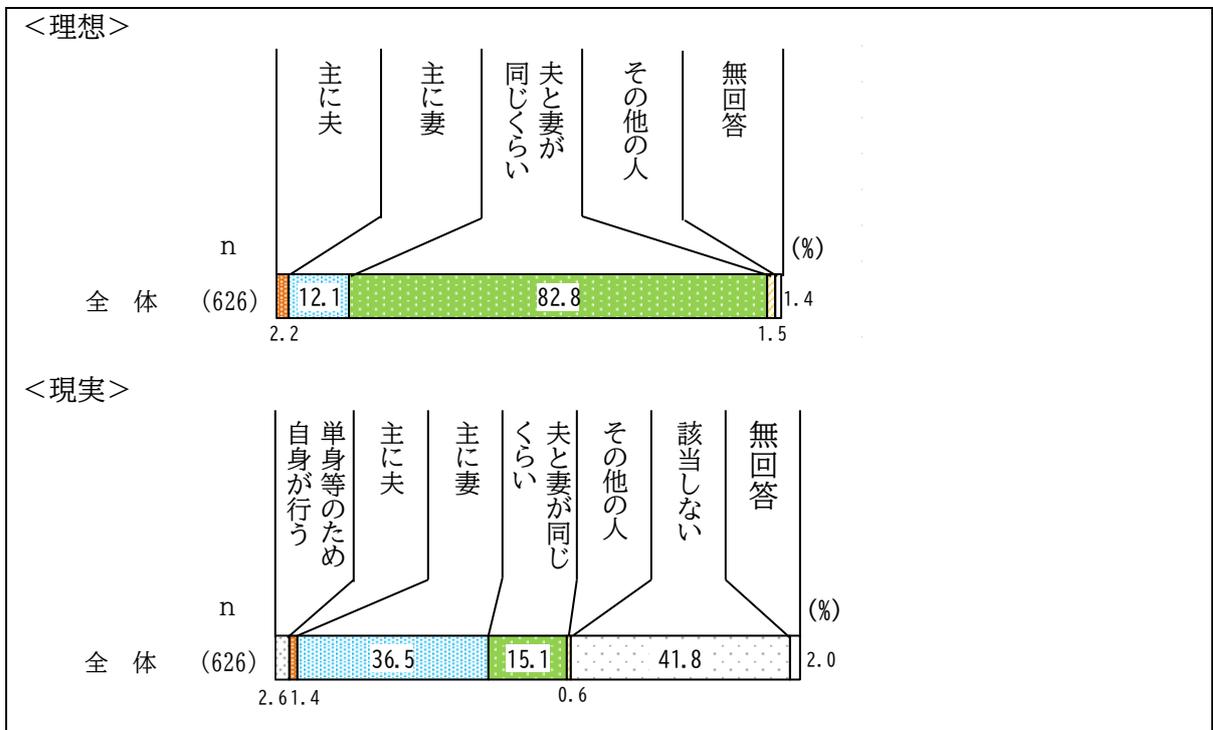
「主に夫」は理想では1.4%に対し、現実には1.7%。「主に妻」は理想では24.0%に対し、現実には45.4%。「夫と妻が同じくらい」は理想では71.3%に対し、現実には10.9%となっています。

(キ) 子育て（入浴・沐浴）



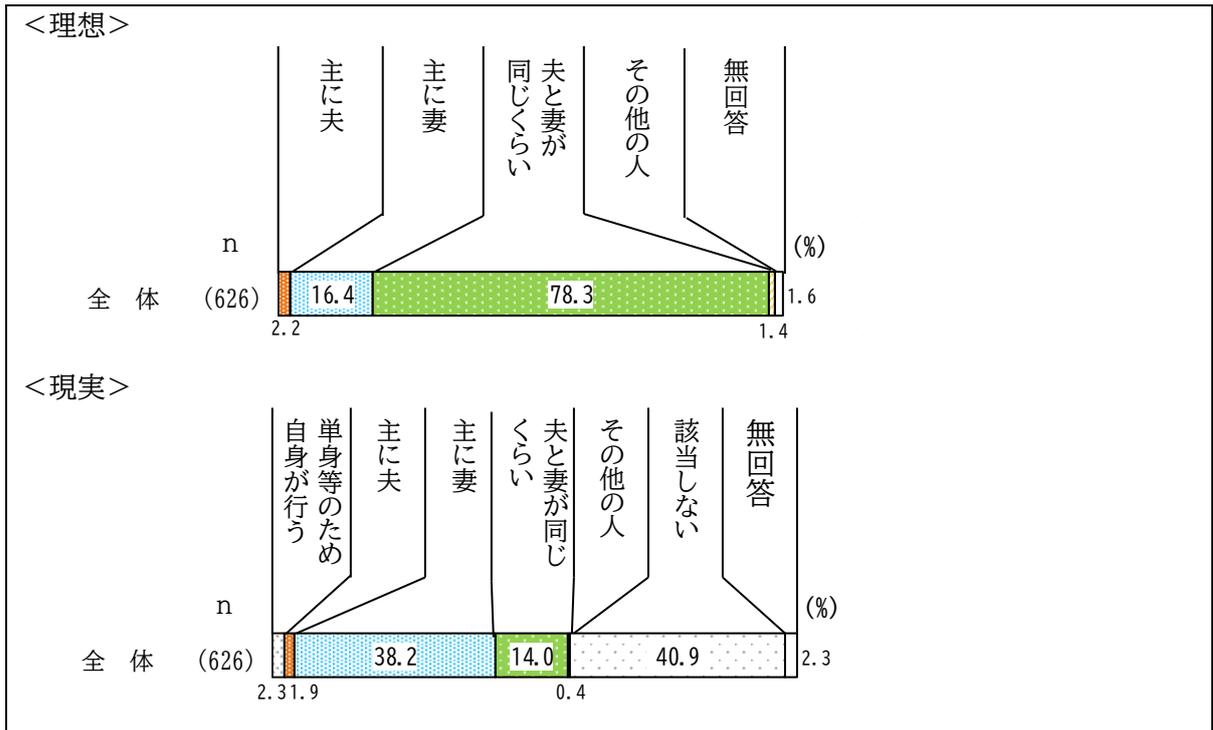
「主に夫」は理想では8.9%に対し、現実には6.9%。「主に妻」は理想では9.9%に対し、現実には31.0%。「夫と妻が同じくらい」は理想では78.1%に対し、現実には15.8%となっています。

(ク) 子育て（トイレ・おむつ替え）



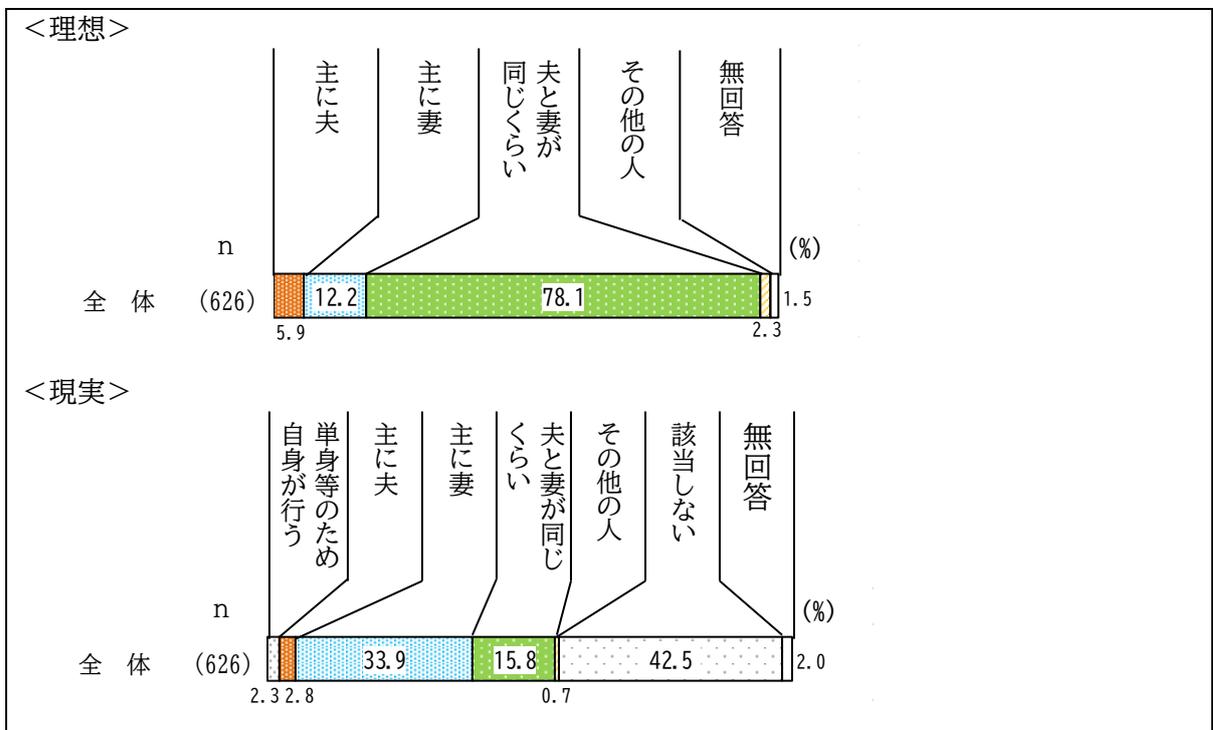
「主に夫」は理想では2.2%に対し、現実には1.4%。「主に妻」は理想では12.1%に対し、現実には36.5%。「夫と妻が同じくらい」は理想では82.8%に対し、現実には15.1%となっています。

(ケ) 子育て（寝かしつけ、添い寝）



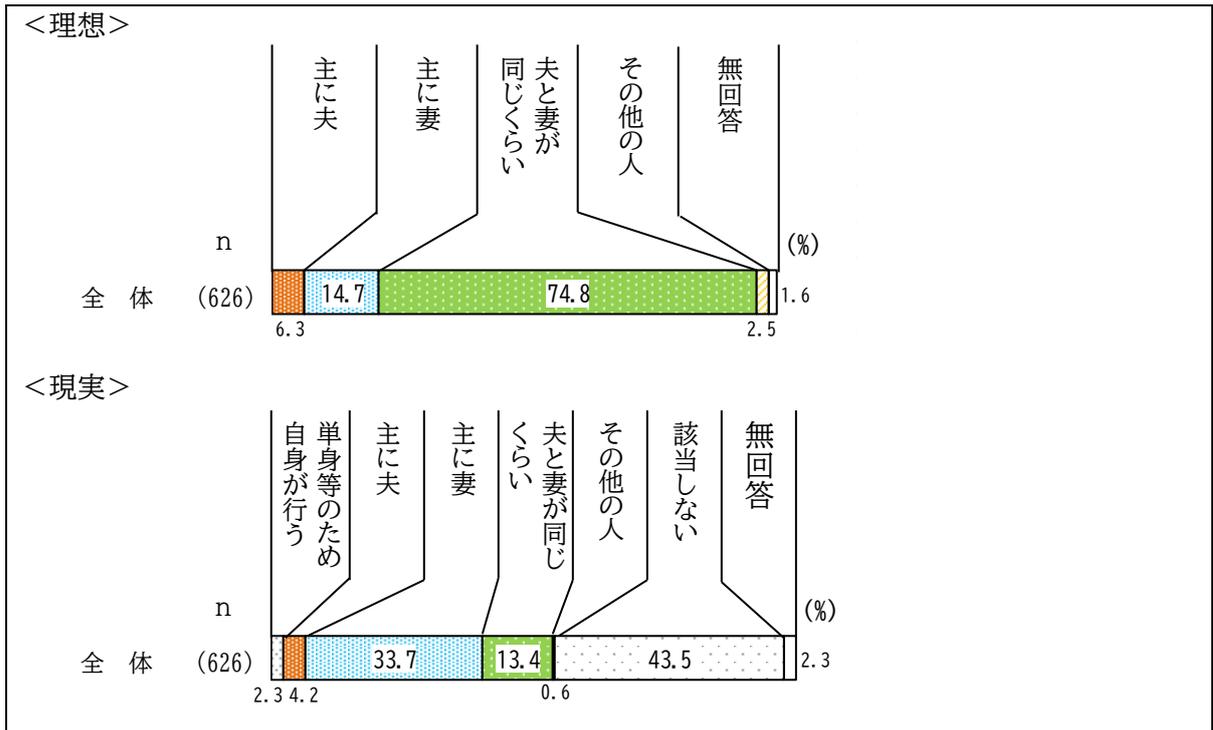
「主に夫」は理想では2.2%に対し、現実には1.9%。「主に妻」は理想では16.4%に対し、現実には38.2%。「夫と妻が同じくらい」は理想では78.3%に対し、現実には14.0%となっています。

(コ) 子育て（保育園等の送迎）



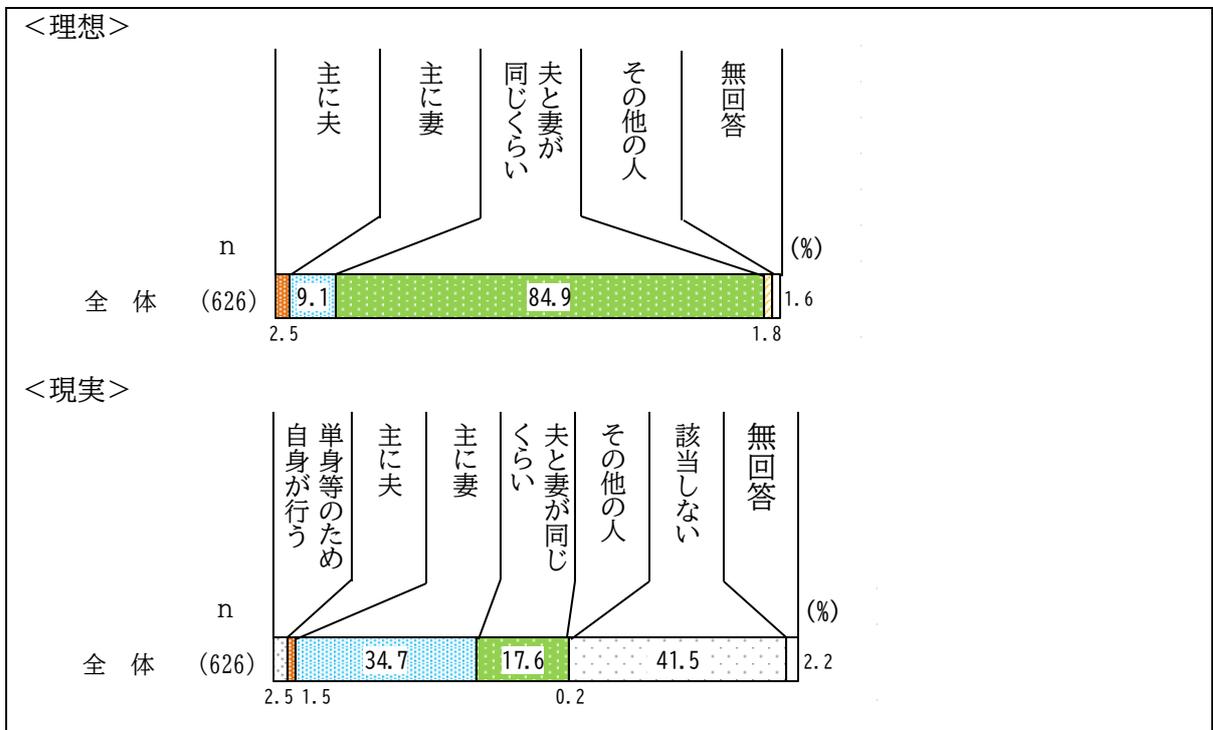
「主に夫」は理想では5.9%に対し、現実には2.8%。「主に妻」は理想では12.2%に対し、現実には33.9%。「夫と妻が同じくらい」は理想では78.1%に対し、現実には15.8%となっています。

(サ) 子育て（習い事の送迎）



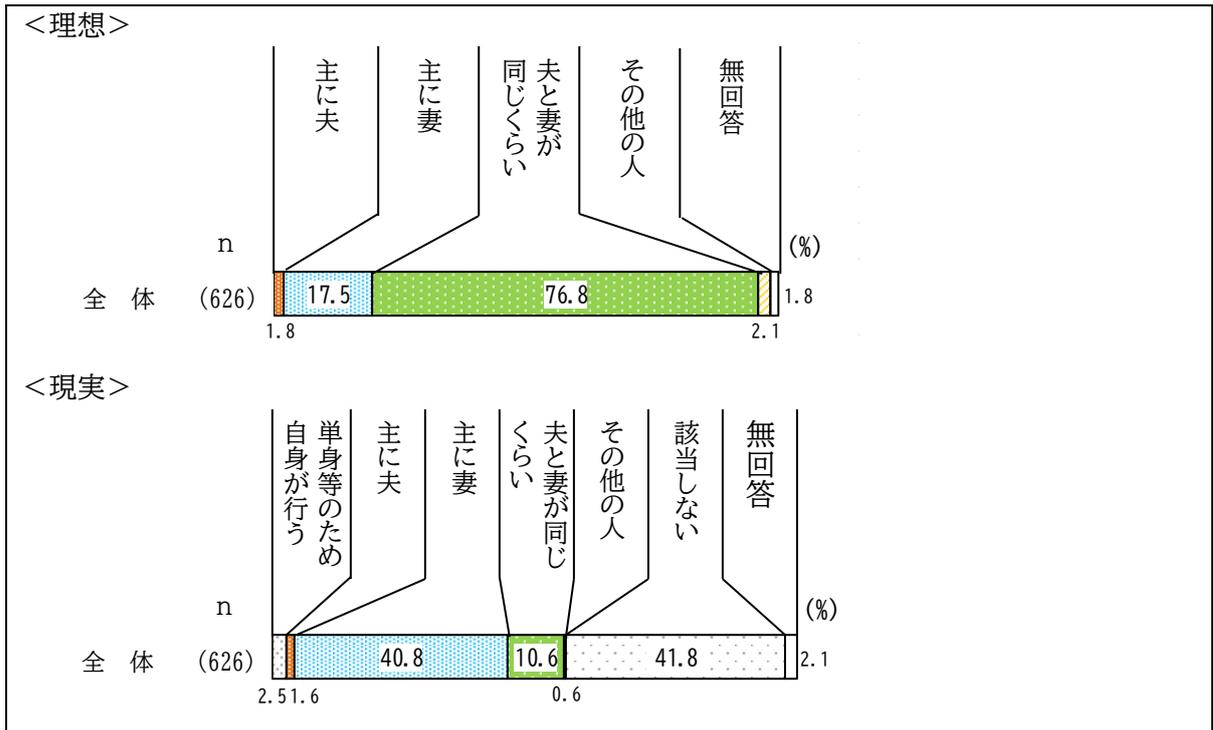
「主に夫」は理想では6.3%に対し、現実には4.2%。「主に妻」は理想では14.7%に対し、現実には33.7%。「夫と妻が同じくらい」は理想では74.8%に対し、現実には13.4%となっています。

(シ) 子育て（学校行事等への参加）



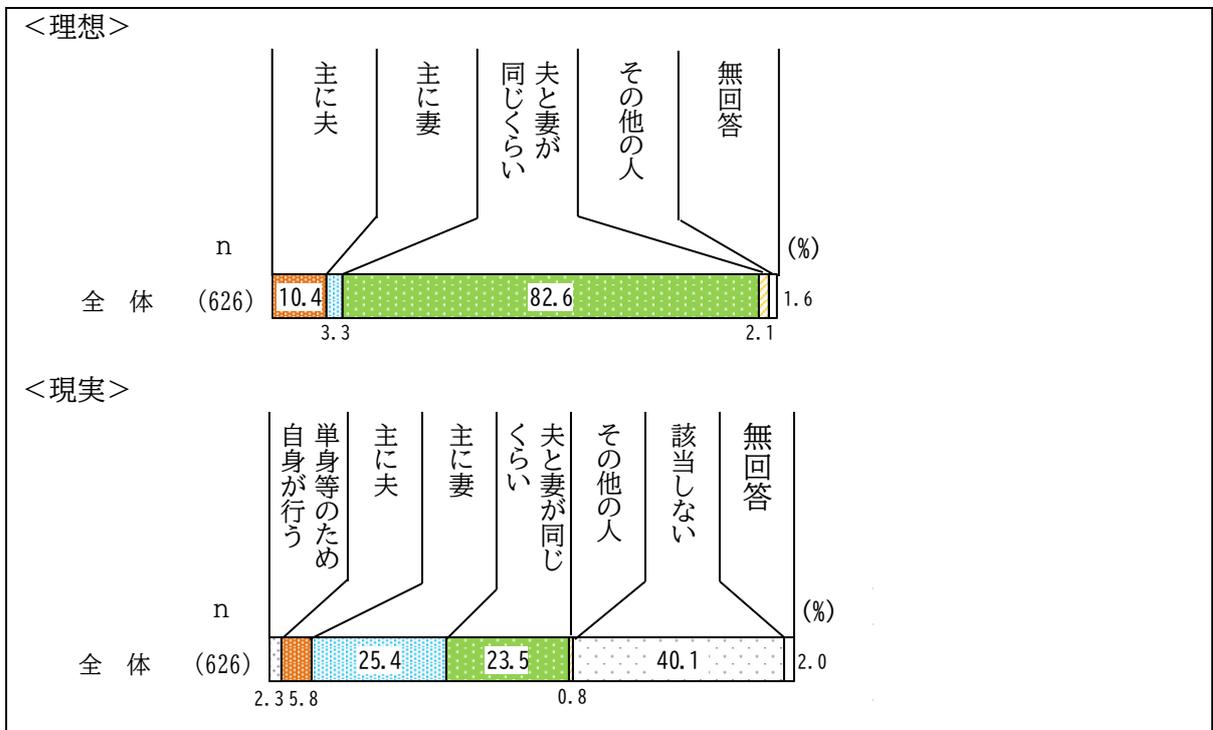
「主に夫」は理想では2.5%に対し、現実には1.5%。「主に妻」は理想では9.1%に対し、現実には34.7%。「夫と妻が同じくらい」は理想では84.9%に対し、現実には17.6%となっています。

(ス) 子育て（宿題対応、教育、学校生活、弁当、給食準備等の支援）



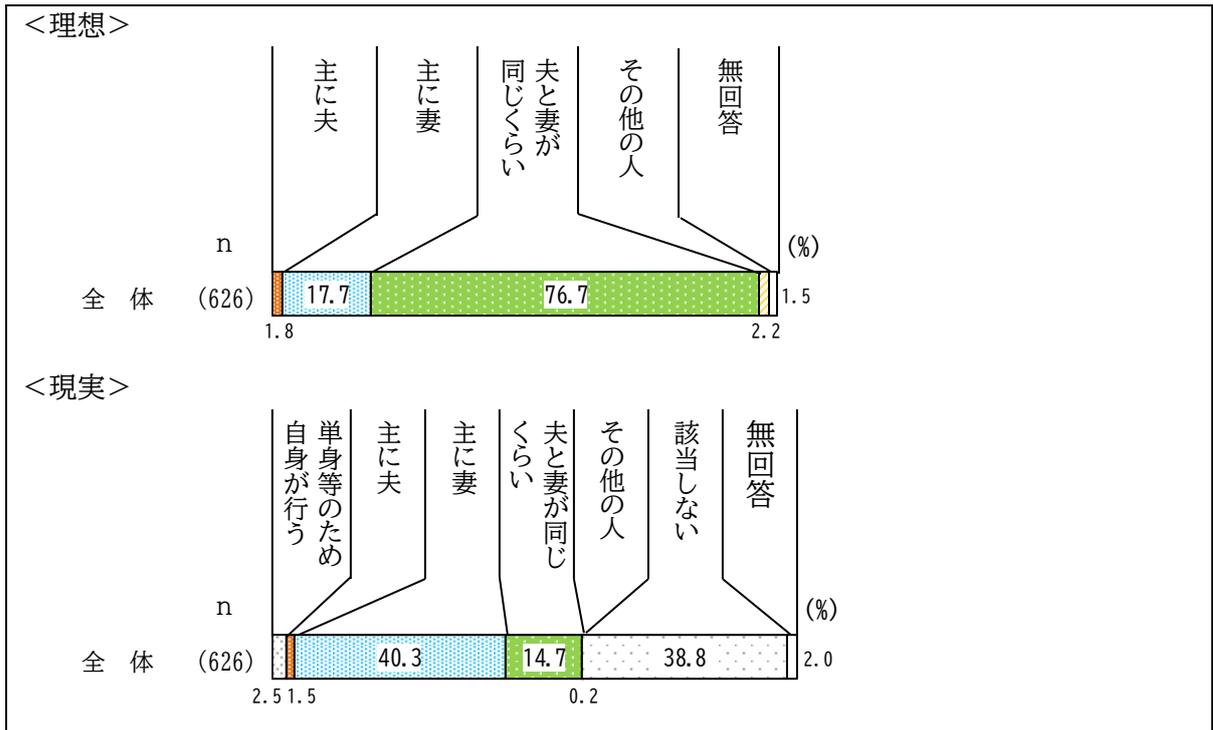
「主に夫」は理想では1.8%に対し、現実には1.6%。「主に妻」は理想では17.5%に対し、現実には40.8%。「夫と妻が同じくらい」は理想では76.8%に対し、現実には10.6%となっています。

(セ) 子育て（遊び相手）



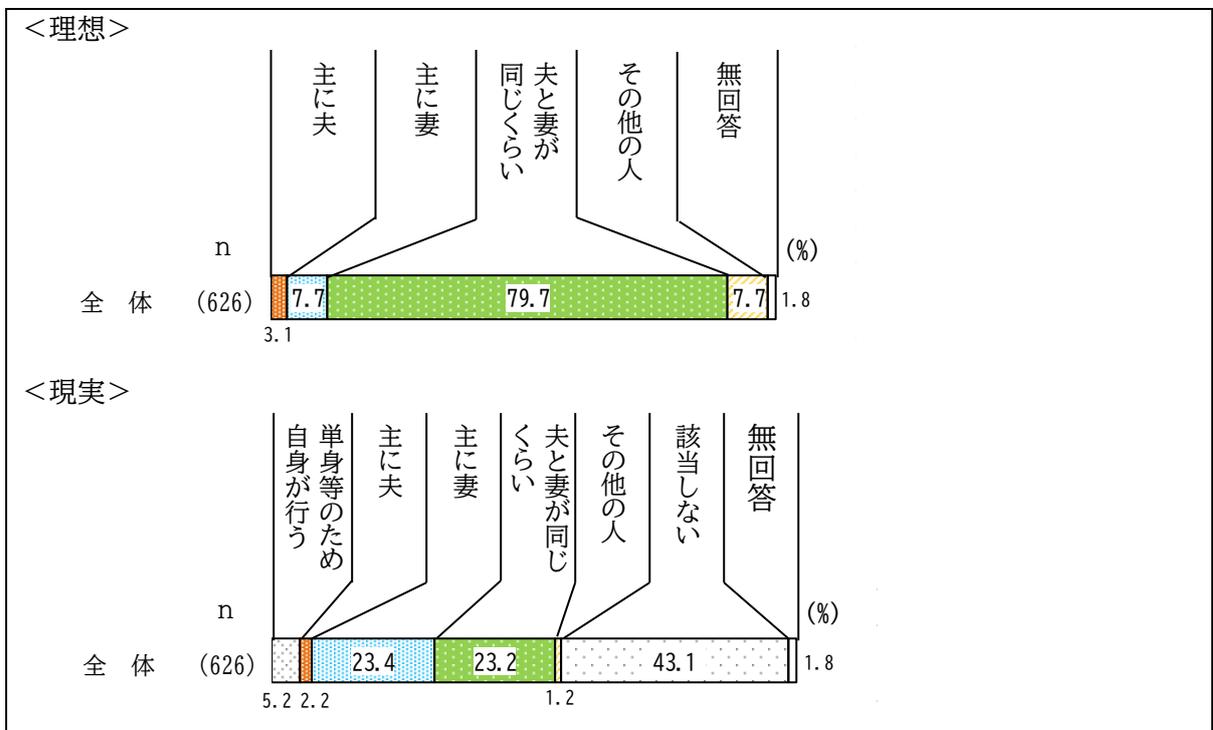
「主に夫」は理想では1.6%に対し、現実には5.8%。「主に妻」は理想では10.4%に対し、現実には25.4%。「夫と妻が同じくらい」は理想では82.6%に対し、現実には23.5%となっています。

(ソ) 子育て（病気の際の世話）



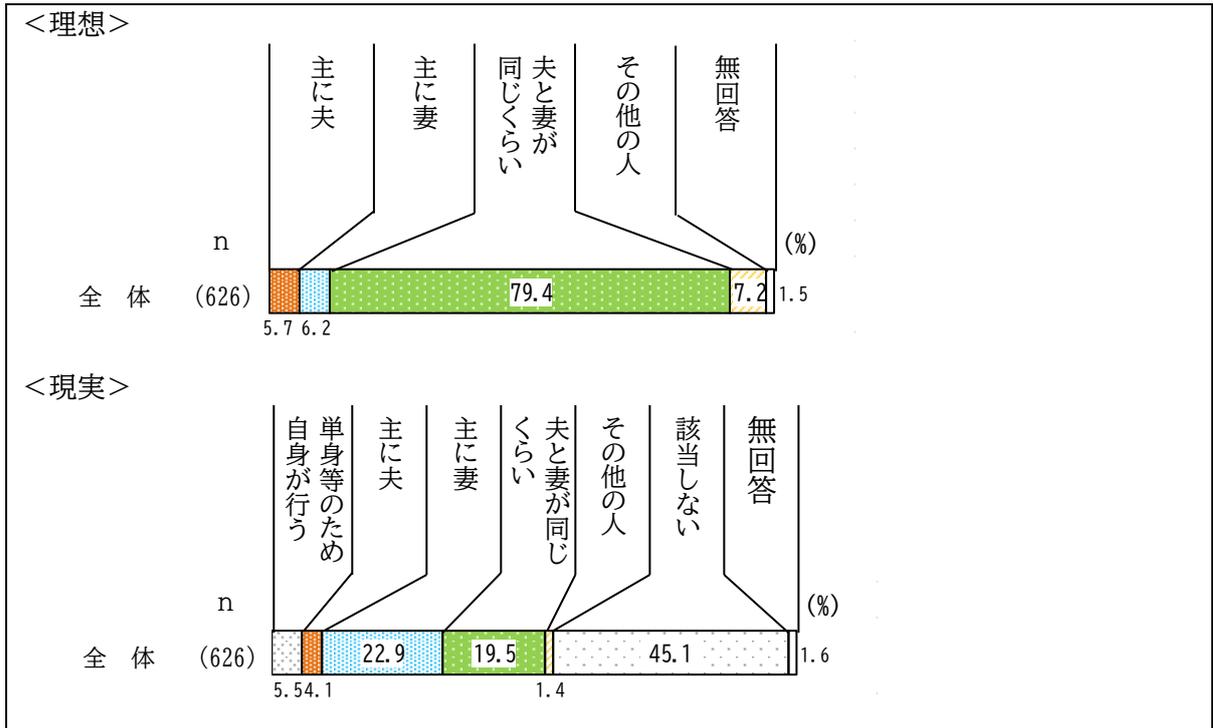
「主に夫」は理想では1.8%に対し、現実には1.5%。「主に妻」は理想では17.7%に対し、現実には40.3%。「夫と妻が同じくらい」は理想では76.7%に対し、現実には14.7%となっています。

(タ) 親や病人の世話・介護（直接的な世話）※食事や入浴等の世話を自身で行うこと



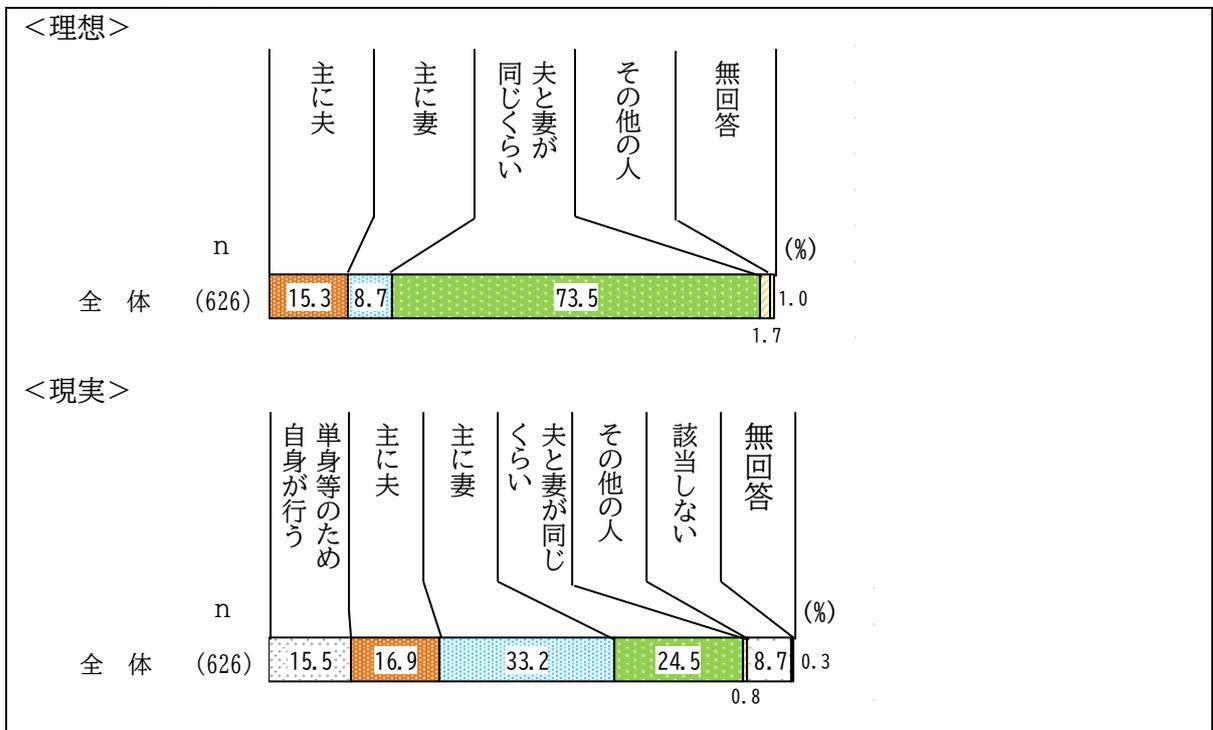
「主に夫」は理想では3.1%に対し、現実には2.2%。「主に妻」は理想では7.7%に対し、現実には23.4%。「夫と妻が同じくらい」は理想では79.7%に対し、現実には23.2%となっています。

(チ) 親や病人の世話・介護（外部サービスとの調整等）※各種外部サービスの手続き・連絡調整に関すること



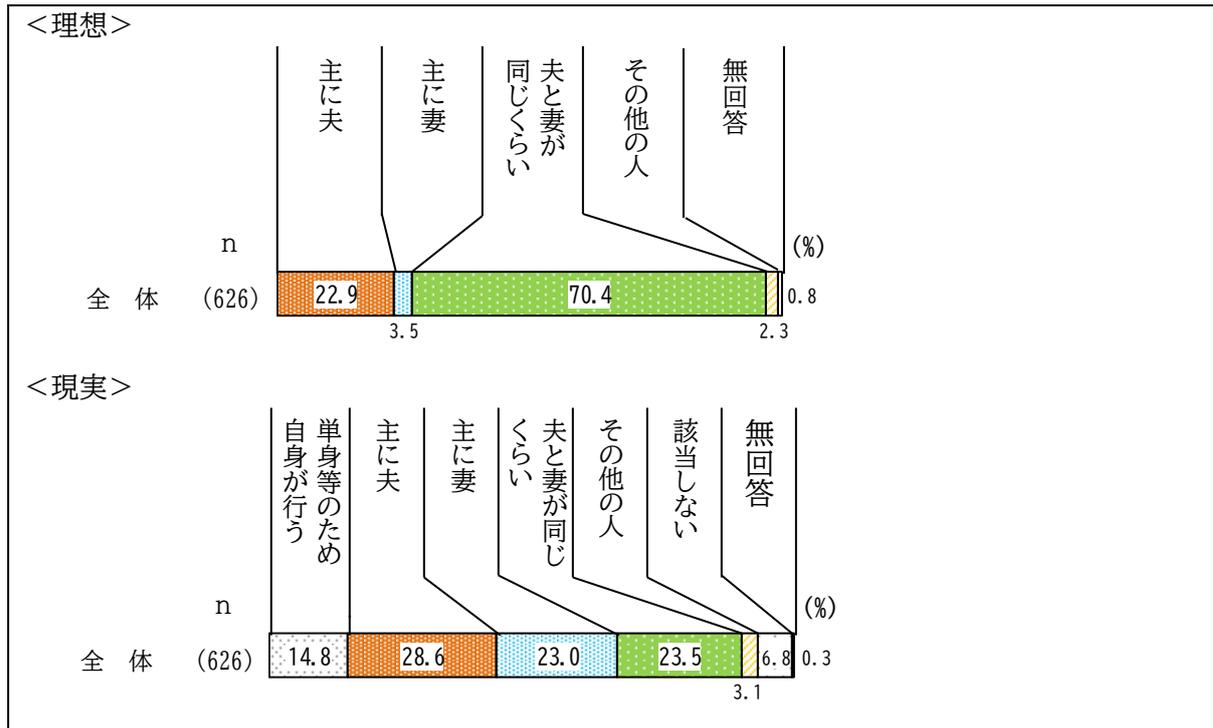
「主に夫」は理想では5.7%に対し、現実4.1%。「主に妻」は理想では6.2%に対し、現実22.9%。「夫と妻が同じくらい」は理想では79.4%に対し、現実19.5%となっています。

(ツ) 役所・銀行等の手続き



「主に夫」は理想では15.3%に対し、現実16.9%。「主に妻」は理想では8.7%に対し、現実33.2%。「夫と妻が同じくらい」は理想では73.5%に対し、現実24.5%となっています。

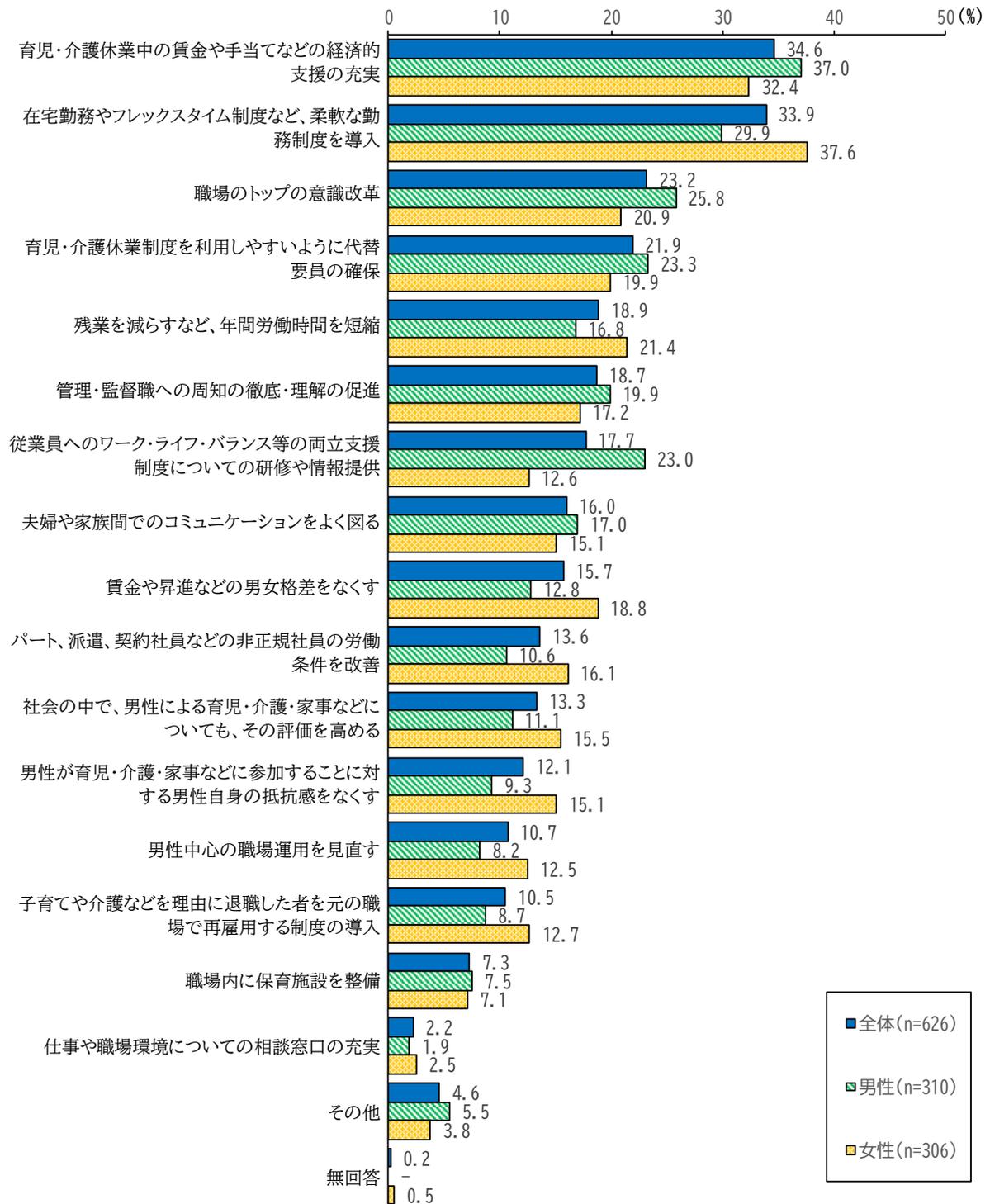
(テ) ごみ捨て



「主に夫」は理想では22.9%に対し、現実には28.6%。「主に妻」は理想では3.5%に対し、現実には23.0%。「夫と妻が同じくらい」は理想では70.4%に対し、現実には23.5%となっています。

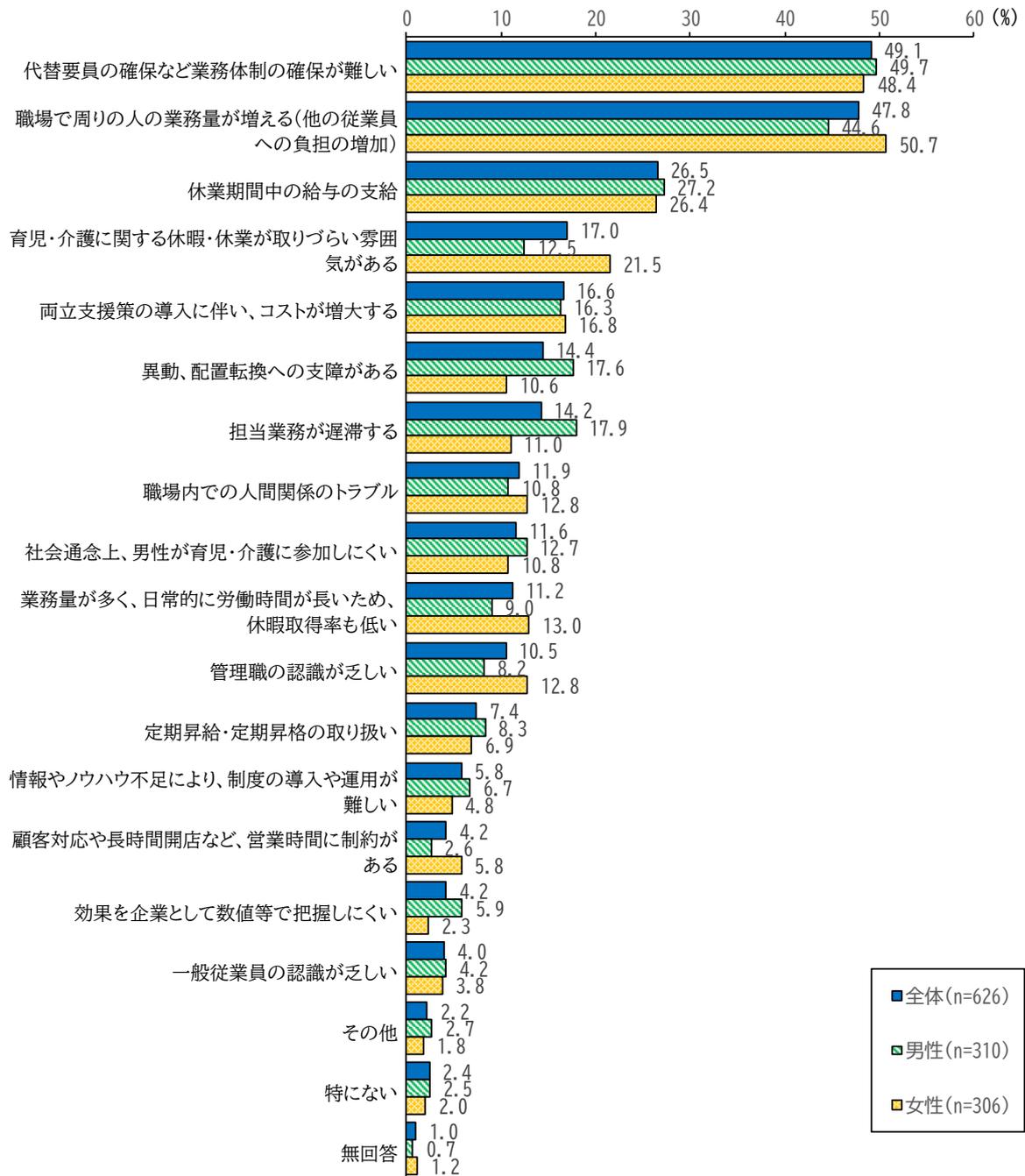
#### (4) 仕事と家庭生活の両立に必要なこと

問9 あなたは、男女がともに仕事と家庭生活を両立していくために、今後、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）



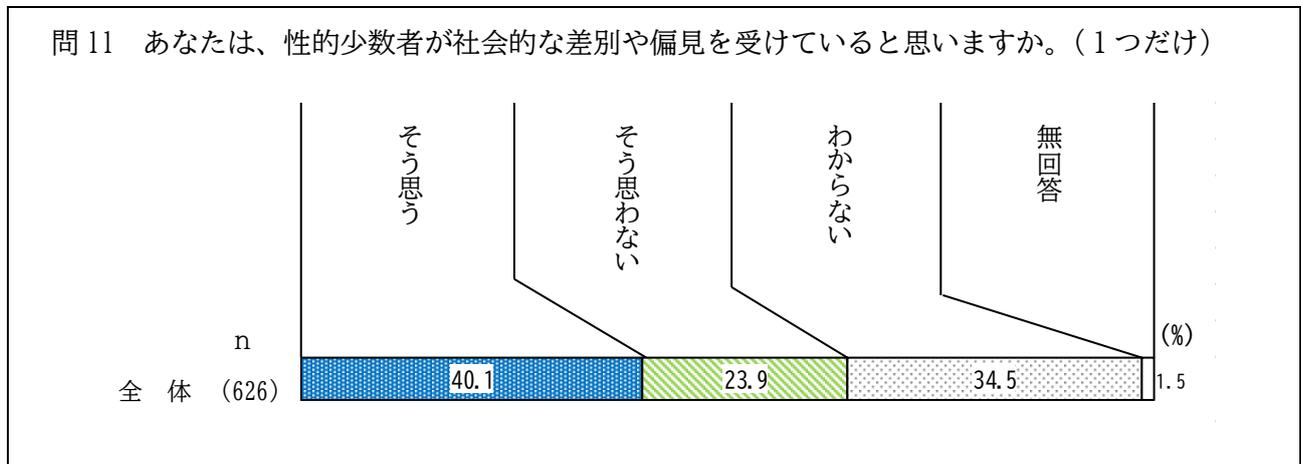
## (5) 仕事と育児・介護の両立支援への取組の課題

問10 あなたは、事業所（企業）が仕事と育児・介護の両立支援に取り組んだ場合、どのような課題があると思いますか。（3つまで）



## 5. 性的少数者について

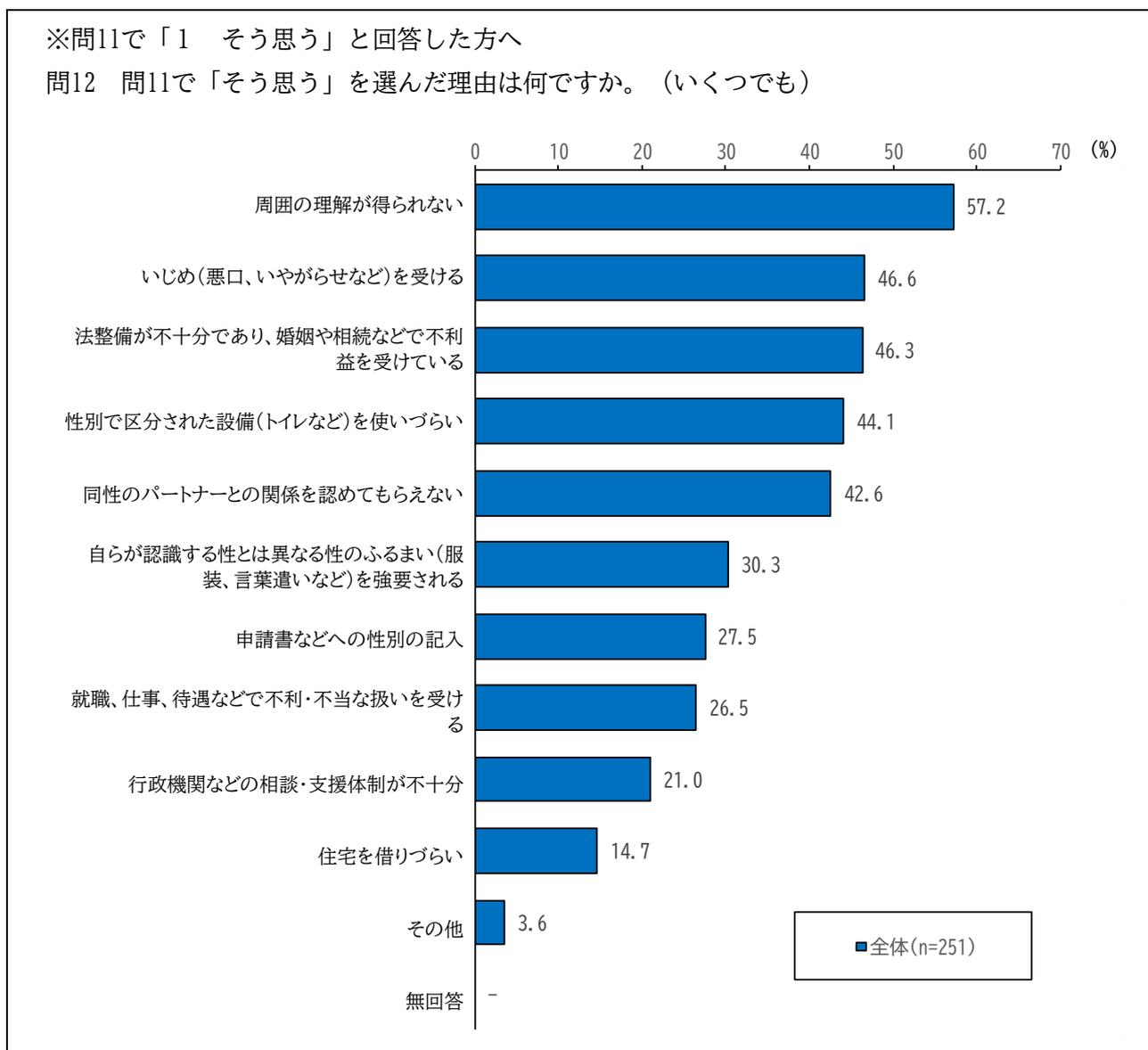
### (1) 性的少数者への差別や偏見の有無



性的少数者への差別や偏見の有無について聞いたところ、「そう思う」の割合（40.1%）が約4割となっています。一方、「そう思わない」の割合（23.9%）が2割台半ばとなっています。

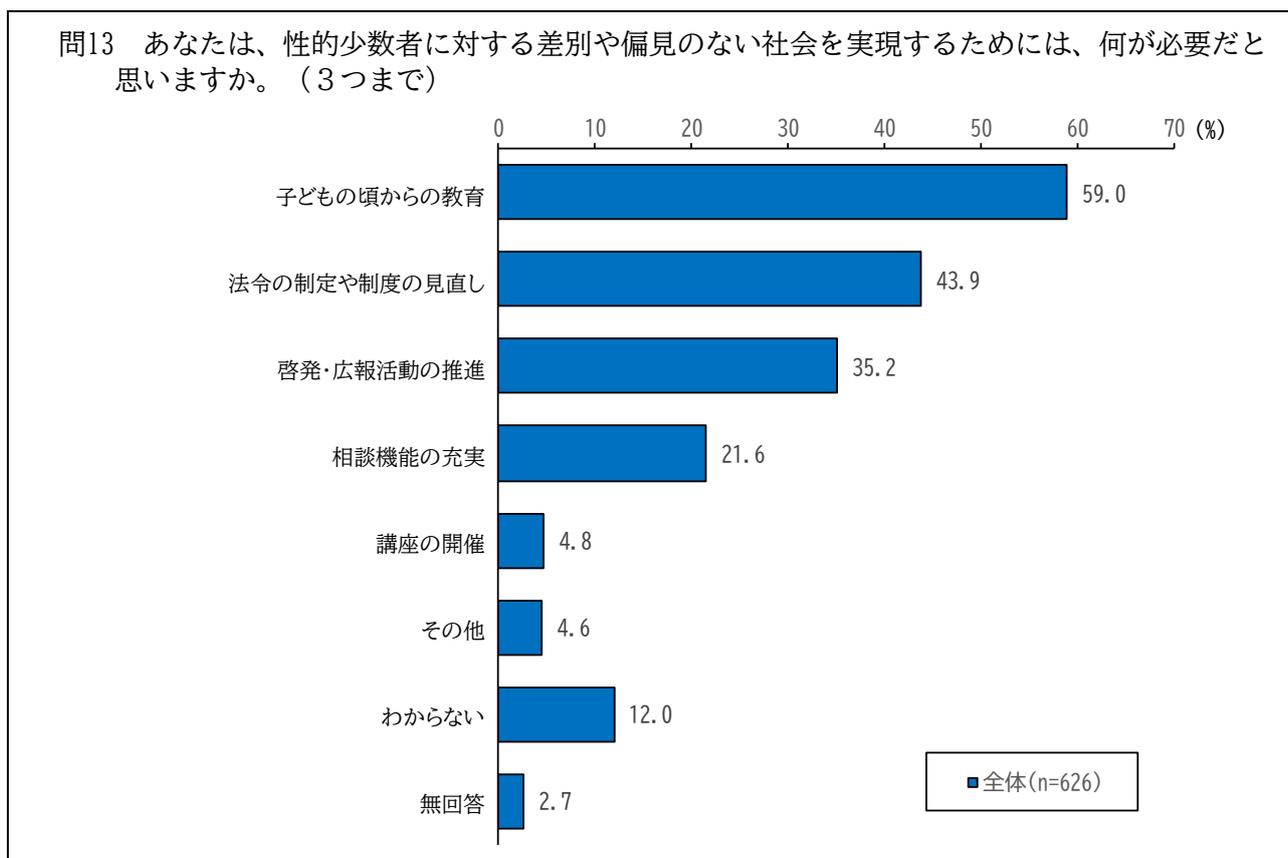
また、「わからない」（34.5%）が3割台半ばとなっています。

## (2) 性的少数者への差別や偏見があると思う理由



性的少数者への差別や偏見があると思うと回答した理由を聞いたところ、「周囲の理解が得られない」(57.2%)が最も高く、以下、「いじめ(悪口、いやがらせなど)を受ける」(46.6%)、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けている」(46.3%)、「性別で区分された設備(トイレなど)を使いづらい」(44.1%)が続いています。

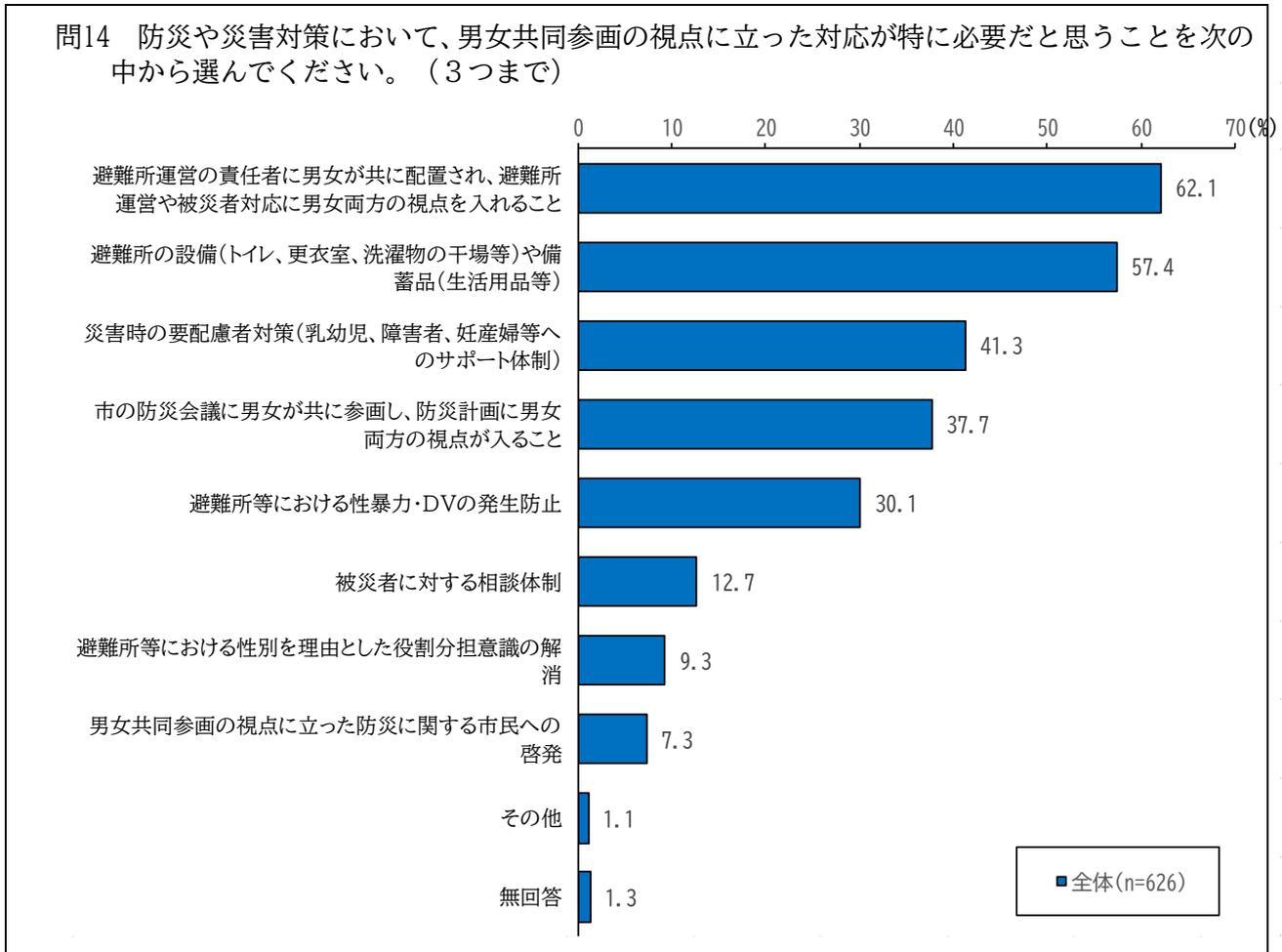
### (3) 性的少数者に対する差別や偏見のない社会を実現するために必要なこと



性的少数者に対する差別や偏見のない社会を実現するために必要なことを聞いたところ、「子どもの頃からの教育」(59.0%)が最も高く、以下、「法令の制定や制度の見直し」(43.9%)、「啓発・広報活動の推進」(35.2%)、「相談機能の充実」(21.6%)が続いています。

## 6. 防災について

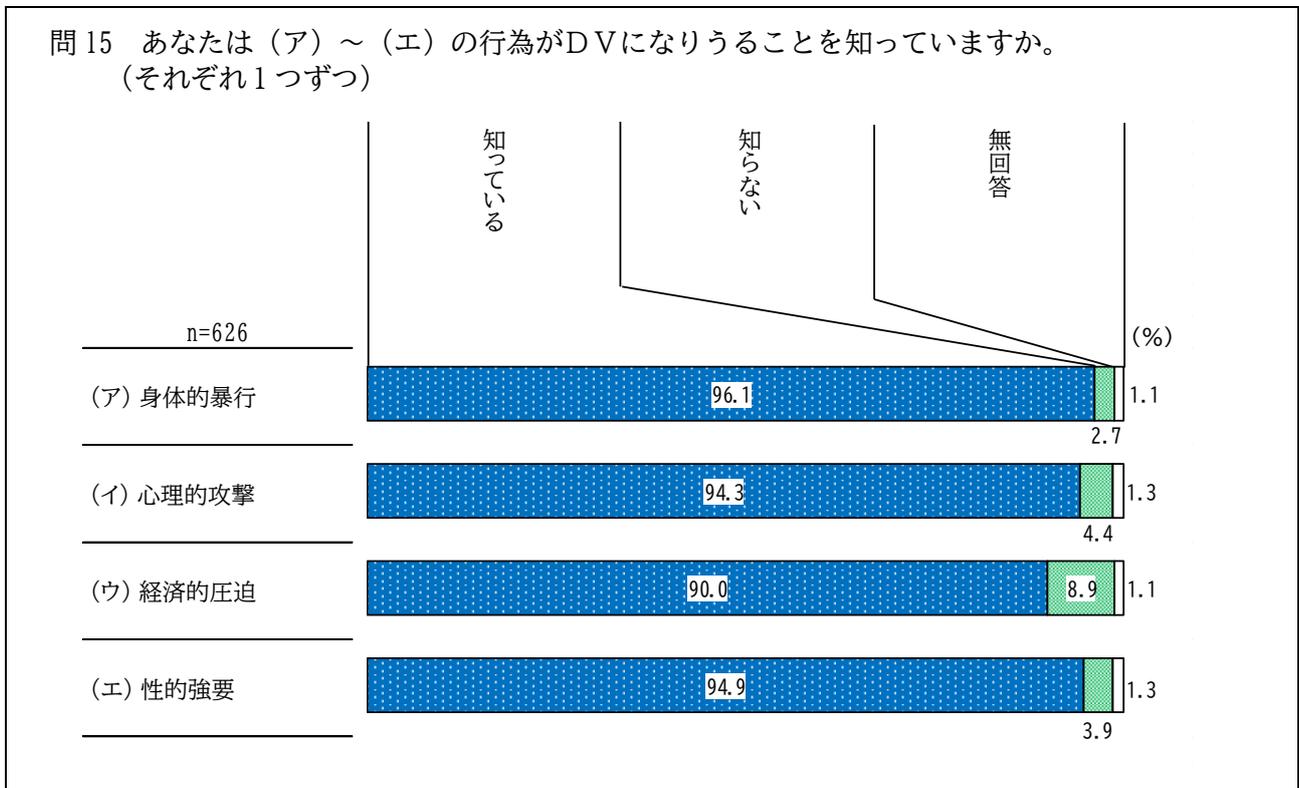
### (1) 防災や災害対策で男女共同参画の視点に立った対応が必要なこと



防災や災害対策で男女共同参画の視点に立った対応が必要なことを聞いたところ、「避難所運営の責任者に男女が共に配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点を入れること」(62.1%)が最も高く、以下、「避難所の設備(トイレ、更衣室、洗濯物の干場等)や備蓄品(生活用品等)」(57.4%)、「災害時の要配慮者対策(乳幼児、障害者、妊産婦等へのサポート体制)」(41.3%)、「市の防災会議に男女が共に参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること」(37.7%)が続いています。

## 7. 配偶者等からの暴力（DV）について

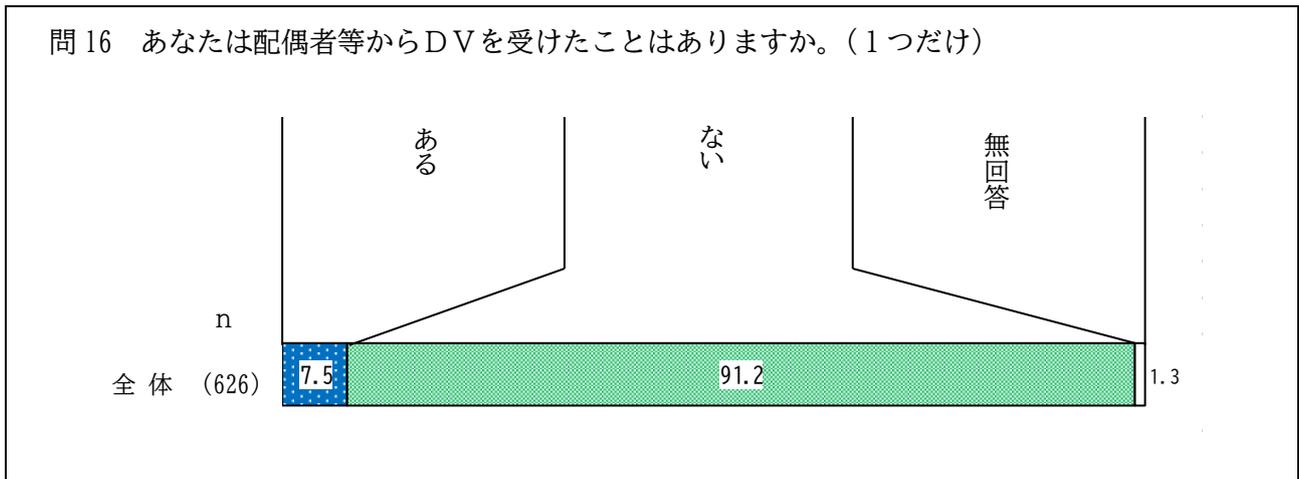
### (1) DVの認知度



- (ア) 身体的暴行：平手でうつ、足でける、髪を引っばる、腕をねじる、凶器を体につきつける、引きずりまわす、物を投げつける
- (イ) 心理的攻撃：大声でどなる、人前でバカにしたり命令口調でものを言う、実家や友人との付き合いを制限、電話やメールを細かくチェック、子どもに危害を加えると言っておどす
- (ウ) 経済的圧迫：生活費を渡さない、外で働くことを認めない、仕事を辞めさせたりする
- (エ) 性的強要：嫌がっているのに性行為を強要、中絶を強要、避妊に協力しない

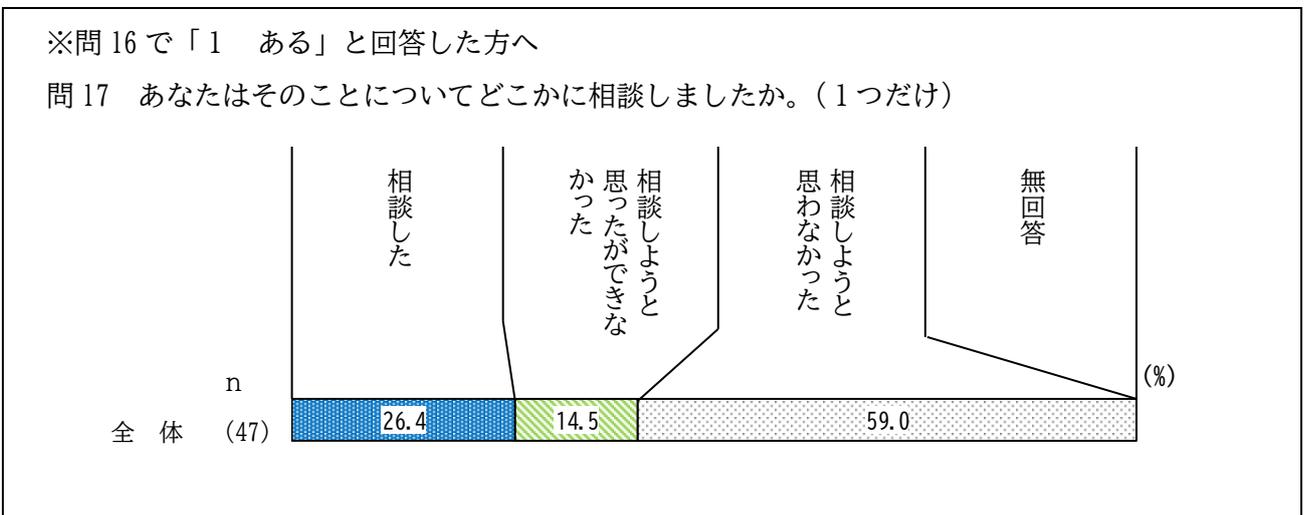
（ア）～（エ）の行為がDVになりうることについての認知度を聞いたところ、「知っている」の割合は、「（ア） 身体的暴行」（96.1%）、「（エ） 性的強要」（94.9%）、「（イ） 心理的攻撃」（94.3%）が9割台半ば、「（ウ） 経済的圧迫」（90.0%）が9割となっています。

## (2) 配偶者等からDVを受けた経験の有無



配偶者等からDVを受けた経験の有無について聞いたところ、「ある」の割合が7.5%と1割以下となっています。一方、「ない」の割合(91.2%)は9割強となっています。

## (3) DV被害の相談状況



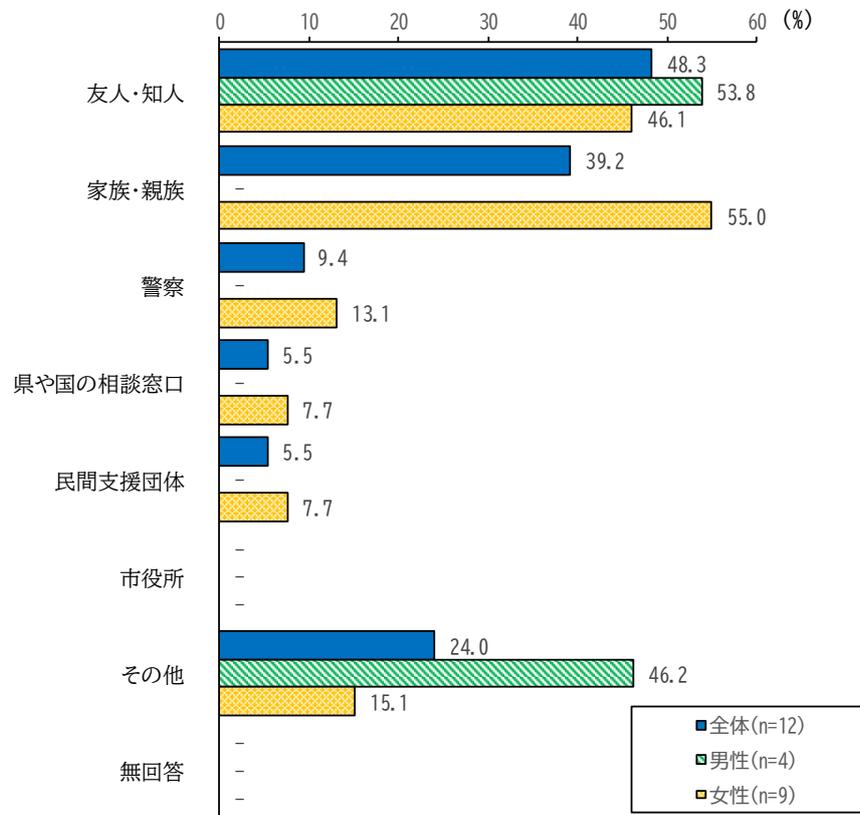
DV被害の相談状況について聞いたところ、「相談した」(26.4%)が2割台半ばとなっています。一方、「相談しようと思ったができなかった」(14.5%)が1割台半ば、「相談しようと思わなかった」の割合(59.0%)が6割弱となっています。

また、「相談しようと思ったができなかった」と「相談しようと思わなかった」をあわせた『相談しなかった(計)』の割合(73.5%)が7割台半ばとなっています。

#### (4) DV被害の相談先

※問17で「1 相談した」と回答した方へ

問18 あなたはどこに相談しましたか。(いくつでも)

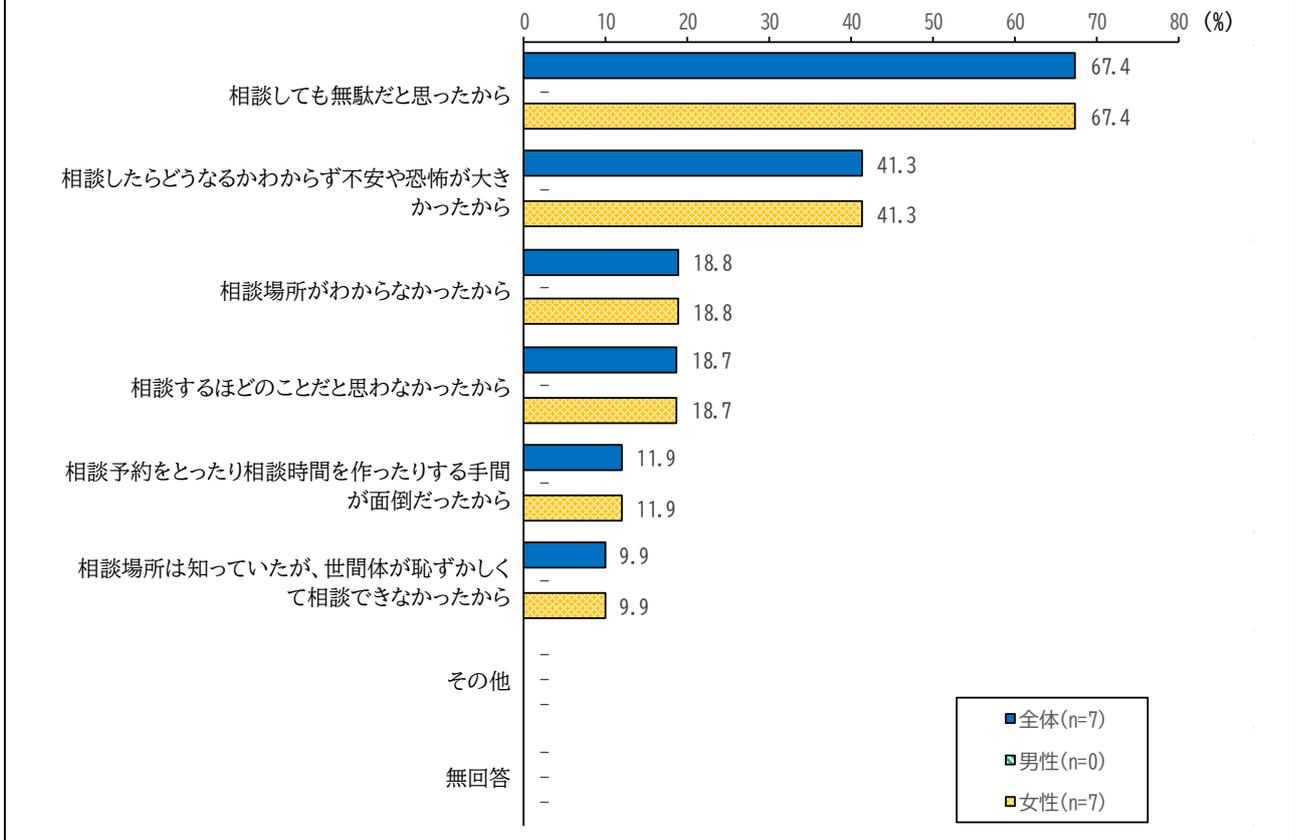


DV被害の相談先としては、「友人・知人」(48.3%)が最も高く、以下、「家族・親族」(39.2%)が続いています。

## (5) 相談できなかった理由

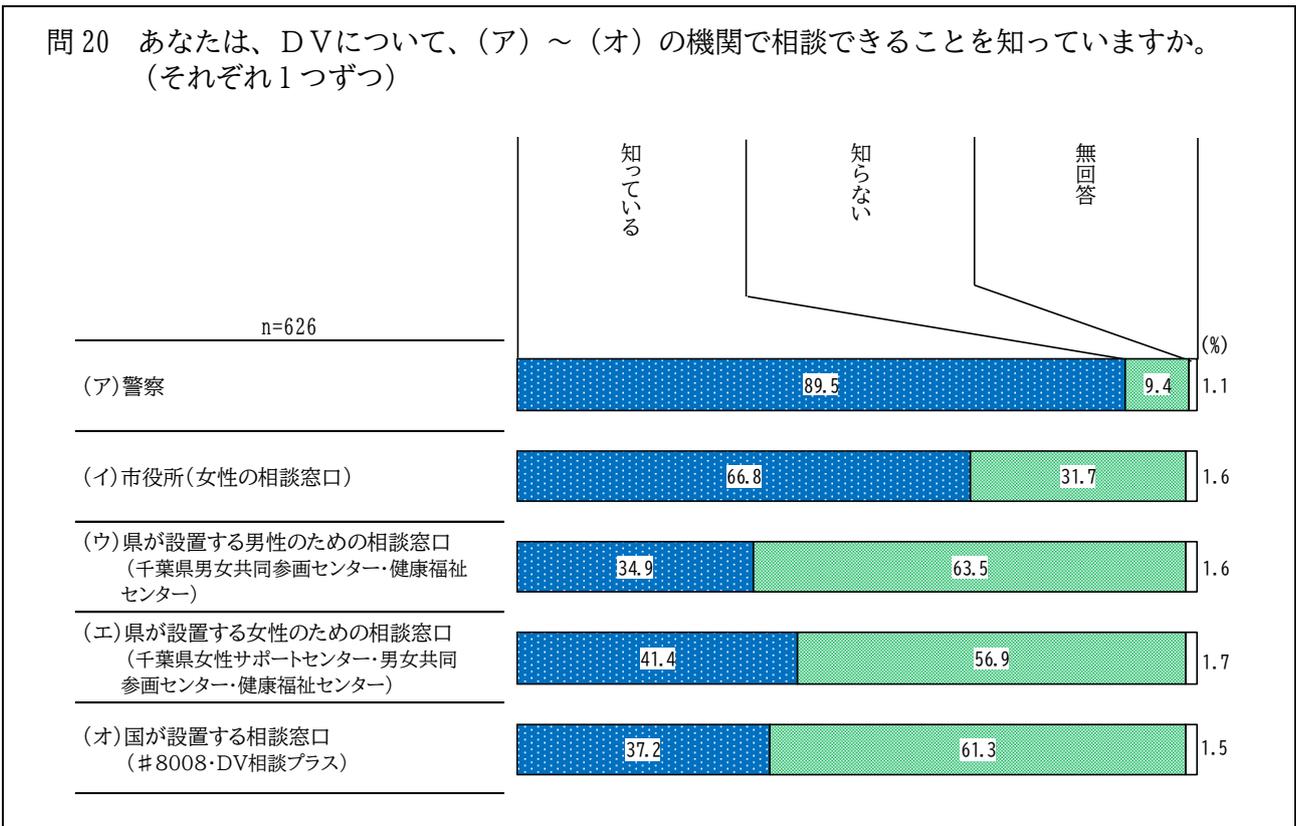
※問 18 で「2 相談しようと思ったができなかった」と回答した方へ

問 19 あなたが相談できなかった理由を教えてください。(いくつでも)



相談できなかった理由を聞いたところ、「相談しても無駄だと思ったから」(67.4%)が最も高く、以下、「相談したらどうなるかわからず不安や恐怖が大きかったから」(41.3%)が続いています。

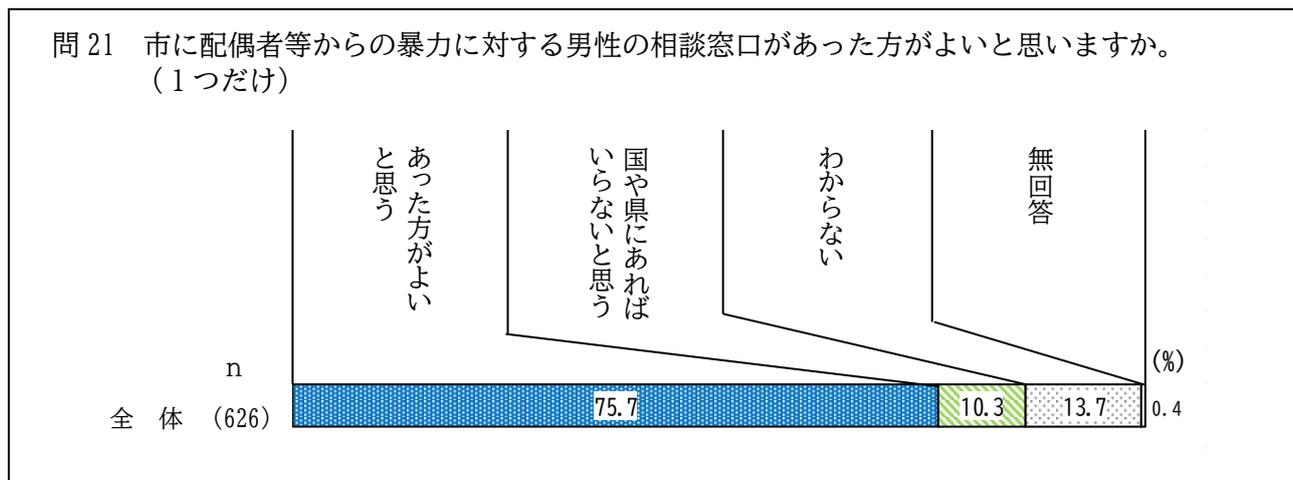
## (6) 相談機関の認知度



相談機関の認知について聞いたところ、「知っている」の割合は、「(ア)警察」(89.5%)が最も高く、以下、「(イ)市役所(女性の相談窓口)」(66.8%)、「(エ)県が設置する女性のための相談窓口(千葉県女性サポートセンター・男女共同参画センター・健康福祉センター)」(41.4%)が続いています。

一方、「知らない」の割合は、「(ウ)県が設置する男性のための相談窓口(千葉県男女共同参画センター・健康福祉センター)」(63.5%)が最も高く、以下、「(オ)国が設置する相談窓口(#8008・DV相談プラス)」(61.3%)、「(エ)県が設置する女性のための相談窓口(千葉県女性サポートセンター・男女共同参画センター・健康福祉センター)」(56.9%)が続いています。

## (7) 配偶者等からの暴力に対する男性の相談窓口の設置

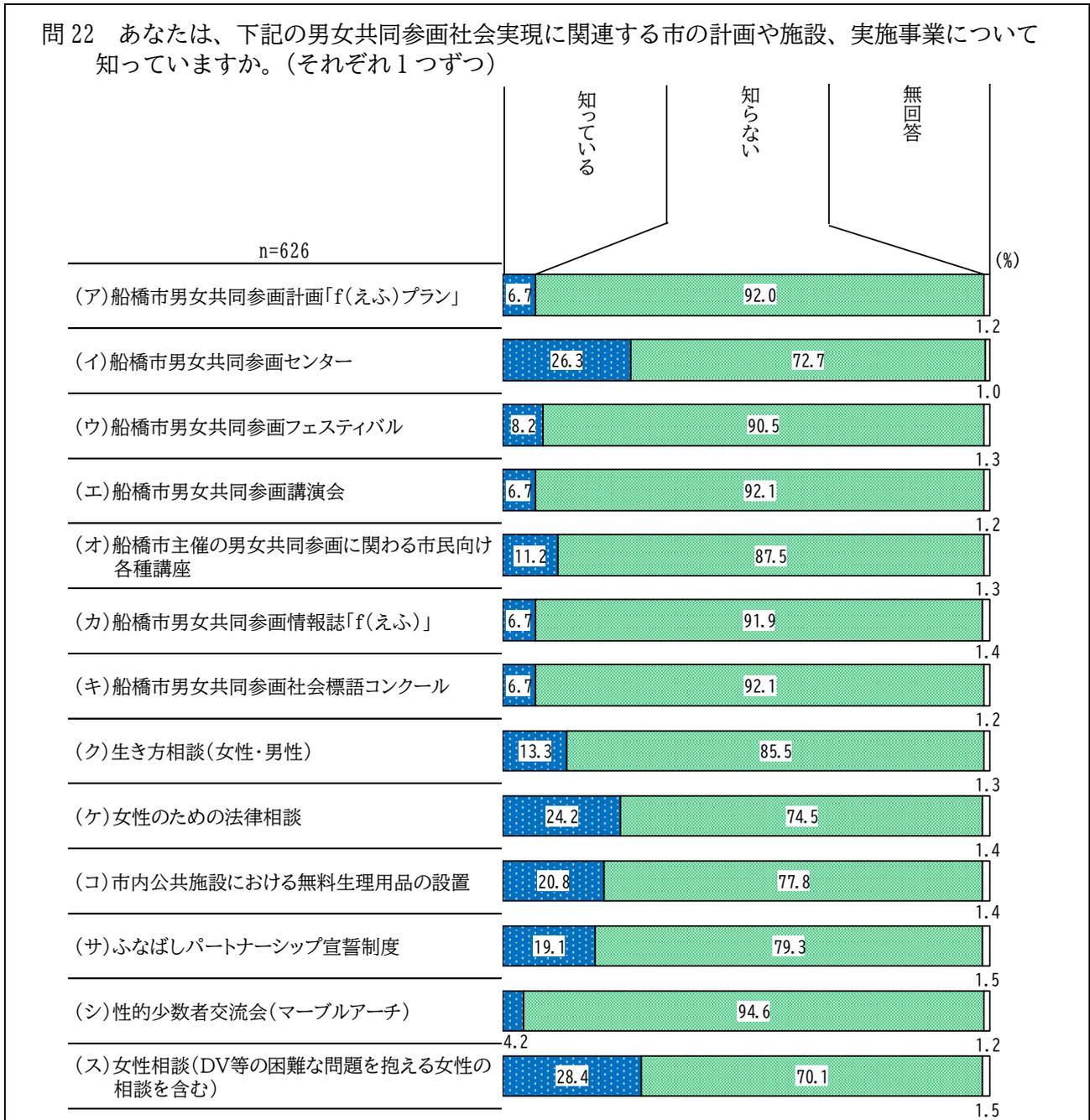


配偶者等からの暴力に対する男性の相談窓口の設置について聞いたところ、「あった方がよいと思う」(75.7%)が7割台半ばとなっています。

一方、「国や県にあればいいと思う」(10.3%)が約1割、「わからない」(13.7%)が1割台半ばとなっています。

## 8. 男女共同参画社会の実現のための市の取り組み

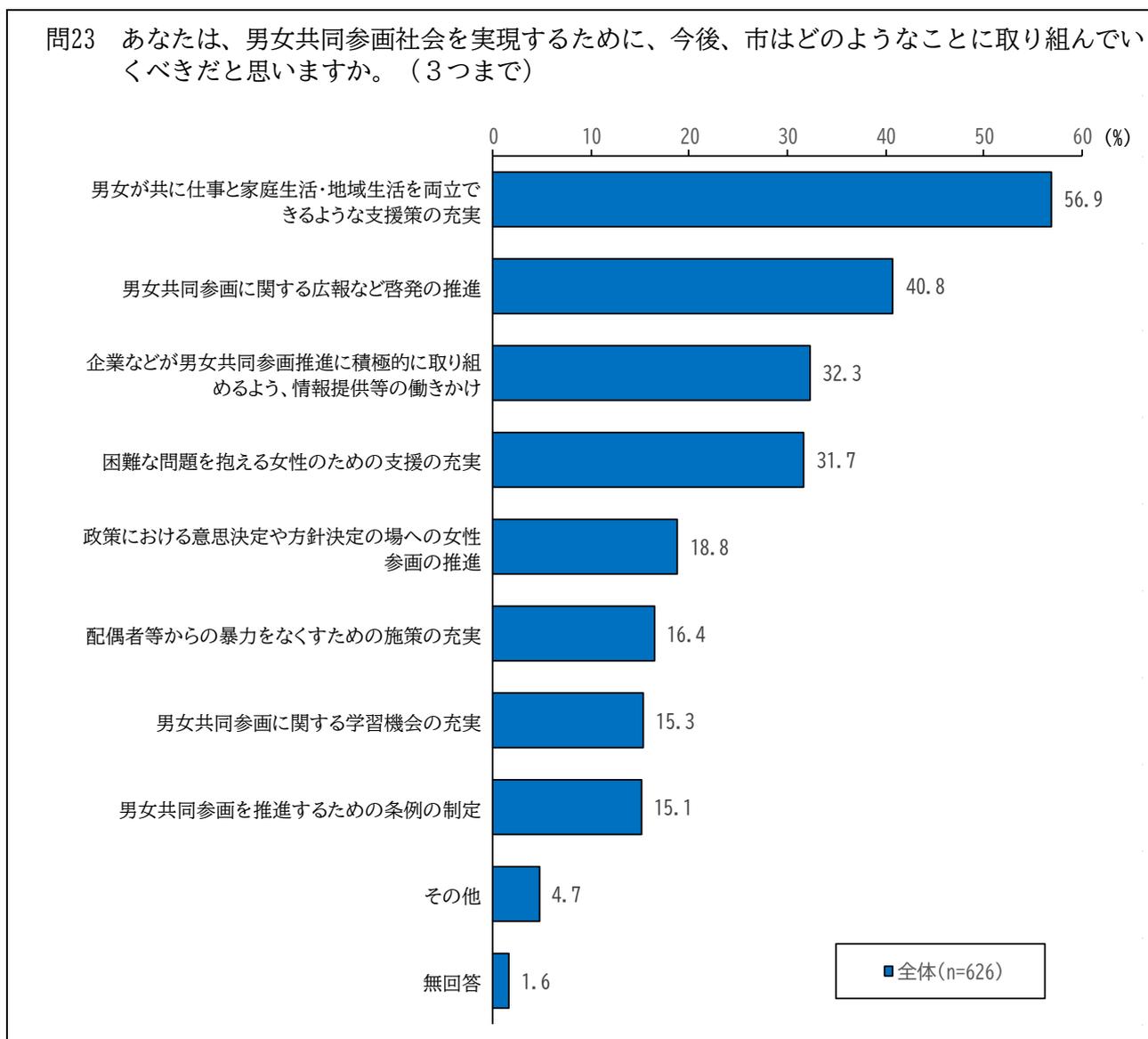
### (1) 市の取り組みの認知度



市の取り組みについて聞いたところ、「知っている」の割合では、「(ス) 女性相談 (DV等の困難な問題を抱える女性の相談を含む)」(28.4%)が最も高く、以下、「(イ) 船橋市男女共同参画センター」(26.3%)、「(ケ) 女性のための法律相談」(24.2%)、「(コ) 市内公共施設における無料生理用品の設置」(20.8%)が続いています。

一方、「知らない」の割合では、「(シ) 性的少数者交流会(マーブルアーチ)」(94.6%)が最も高く、以下、「(エ) 船橋市男女共同参画講演会」(92.1%)、「(キ) 船橋市男女共同参画社会標語コンクール」(92.1%)、「(ア) 船橋市男女共同参画計画「f(えふ)プラン」」(92.0%)が続いています。

## (2) 男女共同参画社会を実現するために、今後、市が取り組むべきこと

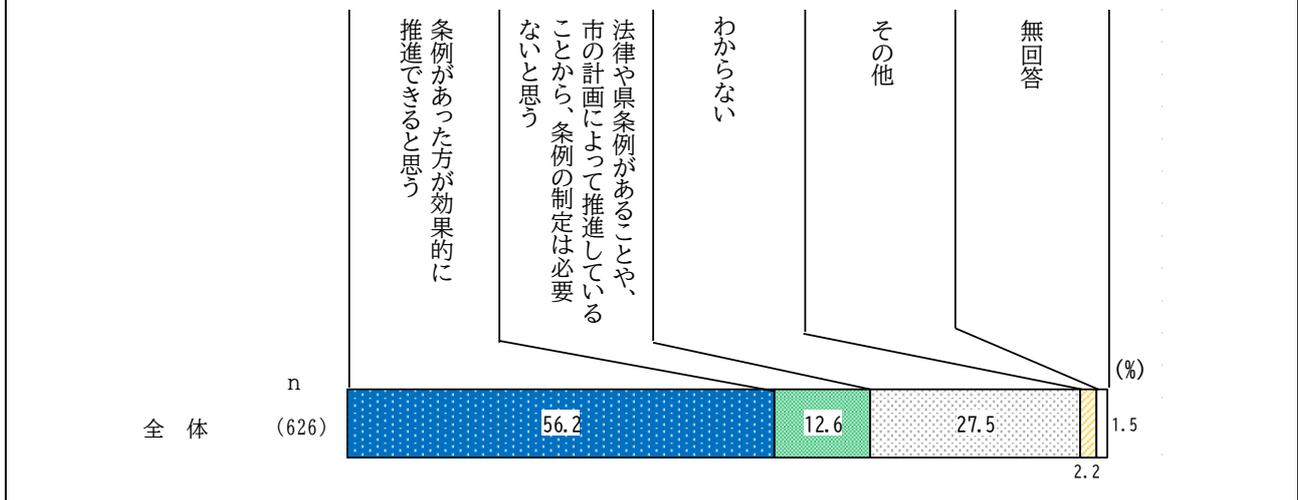


男女共同参画社会を実現するために、今後、市が取り組むべきことを聞いたところ、「男女が共に仕事と家庭生活・地域生活を両立できるような支援策の充実」（56.9%）が最も高く、以下、「男女共同参画に関する広報など啓発の推進」（40.8%）、「企業などが男女共同参画推進に積極的に取り組めるよう、情報提供等の働きかけ」（32.3%）、「困難な問題を抱える女性のための支援の充実」（31.7%）が続いています。

## 9. 男女共同参画に関する条例について

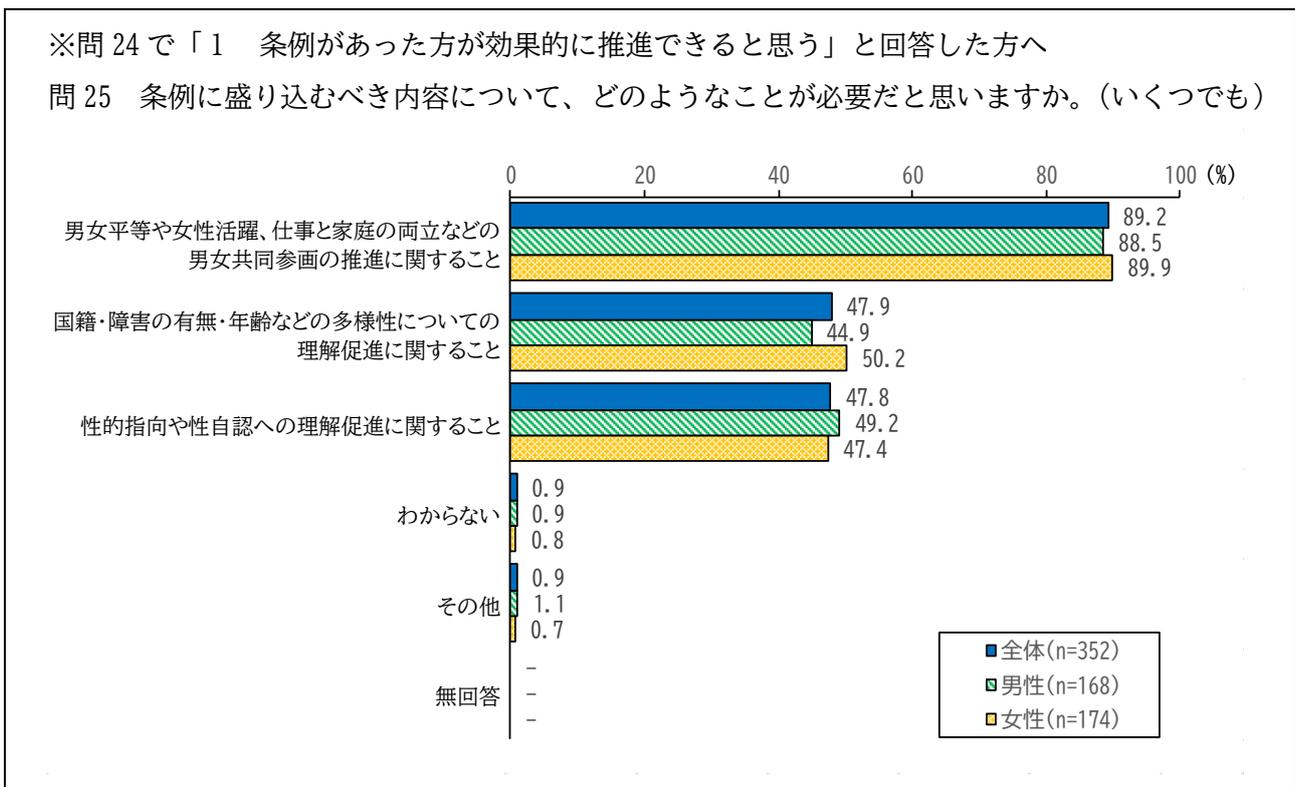
### (1) 男女共同参画に関する条例制定についての考え

問 24 男女共同参画社会の実現を推進するために、船橋市で男女共同参画に関する条例を制定することについて、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つだけ)



男女共同参画に関する条例制定について聞いたところ、「条例があった方が効果的に推進できると思う」(56.2%)は5割台半ばとなっています。一方、「法律や県条例があることや、市の計画によって推進していることから、条例の制定は必要ないと思う」(12.6%)は1割台半ばとなっています。また、「わからない」(27.5%)は2割台半ばとなっています。

## (2) 条例に盛り込むべき内容



条例に盛り込むべき内容を聞いたところ、「男女平等や女性活躍、仕事と家庭の両立などの男女共同参画の推進に関すること」(89.2%)が最も高く、以下、「国籍・障害の有無・年齢などの多様性についての理解促進に関すること」(47.9%)、「性的指向や性自認への理解促進に関すること」(47.8%)が続いています。

